

HP OpenView AssetCenter

ソフトウェアバージョン : 5.01

リリースノート

メーカー部品番号 : T4111-95001
ドキュメントリリース日 : March, 2007
ソフトウェアリリース日 : March, 2007



法的制限事項

保証

HP製品およびサービスに対する保証は、当該製品またはサービスに付帯する明示的保証条項でのみ規定されます。

本規定のいかなる部分も、他の保証を構成すると解釈されるものではありません。

HPは本書の技術上または編集上の誤謬、欠落についての責任を負わないものとします。

本書に含まれる内容は、予告なく変更される場合があります。

限定保証条項

機密コンピュータソフトウェア。

所有、使用、コピーには、HPによる有効なライセンスが必要です。

FAR 12.211および12.212準拠。商用コンピュータソフトウェア、コンピュータソフトウェアマニュアル、技術データは、ベンダの標準商用ライセンスに基づき、米国政府にライセンス供与されています。

著作権

(c) Copyright 1994-2007 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標

- Adobe®, Adobe Photoshop® and Acrobat® are trademarks of Adobe Systems Incorporated.
- Corel® and Corel logo® are trademarks or registered trademarks of Corel Corporation or Corel Corporation Limited.
- Java™ is a US trademark of Sun Microsystems, Inc.
- Linux is a U.S. registered trademark of Linus Torvalds
- Microsoft®, Windows®, Windows NT® and Windows® XP are U.S. registered trademarks of Microsoft Corporation.
- Oracle® is a registered US trademark of Oracle Corporation, Redwood City, California.
- UNIX® is a registered trademark of The Open Group.

目次

はじめに	7
1. 本書の内容	9
2. 関連マニュアルおよび互換対応表	11
関連マニュアル	11
互換対応表	25
3. 新機能	27
バージョン5.01	27
履歴 - バージョン5.00	73
履歴 - バージョン4.2.2	80
履歴 - バージョン4.4.1	81
履歴 - バージョン4.4.0	81
履歴 - バージョン4.3.2	81
履歴 - バージョン4.3.1	82
履歴 - バージョン4.3.0	82
履歴 - バージョン4.2.1	82
履歴 - バージョン4.2.0	83
履歴 - バージョン4.1.0	83
履歴 - バージョン4.0.0	83

4. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル	85
使用可能な「.ini」 および 「.cfg」 ファイル	85
「.ini」 ファイルの変更	87
5. AssetCenterの旧バージョンのアップグレード	93
6. 修正されたバグ	95
バージョン5.01	95
履歴 - バージョン5.00	97
履歴 - バージョン4.2.2	100
履歴 - バージョン4.4.1	103
履歴 - バージョン4.4.0	104
履歴 - バージョン4.3.2	108
履歴 - バージョン4.3.2 (ビルド3654)	108
履歴 - バージョン4.3.1	111
履歴 - バージョン4.3.0	112
履歴 - バージョン4.2.1	113
履歴 - バージョン4.2.0	113
履歴 - バージョン4.1.1	114
履歴 - バージョン4.1.0	115
7. サポート	117
Peregrine製品サポート	117
HP OpenViewサポート	118

表の一覧表

4.1. 「.ini」および「.cfg」ファイル - 主なファイル一覧	85
4.2. 「.ini」および「.cfg」ファイル - 主なファイルの場所	86
4.3. [OPTION] セクション	88
4.4. [SQL] セクション	89
4.5. [OPTION] セクション	89
4.6. [OPTION] セクション	90
4.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ	90
5.1. AssetCenterの旧バージョンのアップグレード - 実行方法	93

はじめに

AssetCenter 5.01では、新機能の追加と多数の問題点の修正が行われています。本書またはその他のAssetCenterマニュアルに記載されていない最新情報については、AssetCenterのインストール先フォルダに入っている「*Readme.txt*」ファイルを参照してください。

1 本書の内容

本書の内容は次のとおりです。

- **AssetCenter**の互換対応表など、関連マニュアルに関する情報
- バージョン4.0.0とバージョン5.01間で追加された新機能の一覧（一部）
- **AssetCenter**の設定ファイルに関する詳細情報
- バージョン4.0.0とバージョン5.01間で修正されたバグの一覧（一部）
- 旧バージョンの**AssetCenter**をアップグレードする手順
- HPのお問い合わせ先

2 関連マニュアルおよび互換対応表

関連マニュアル

本節は、AssetCenter付属のマニュアルについて説明します。

PDFフォーマット（Adobe Acrobat）のマニュアル

▶マニュアル一覧については、「マニュアルの一覧と説明 [献 14]」の節を参照してください。

PDFフォーマットのマニュアルを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 Adobe Readerがインストールされていることを確認します。
インストールされていない場合は、次のアドレスからAdobe Readerをダウンロードします。
<http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep2.html>
- 2 エクスプローラを起動します。
- 3 以下のフォルダのいずれか1つの内容を表示します。
 - AssetCenterインストールフォルダのdoc\pdfサブフォルダ（通常、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\doc\pdf）
 - AssetCenterインストールCD-ROMのac\C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\doc\pdfフォルダ
- 4 対応するPDFファイル（.pdf拡張子）をAdobe Readerで開きます。

CHMフォーマット（コンパイル済みHTML）でのマニュアル

▶マニュアル一覧については、「マニュアルの一覧と説明 [献 14]」の節を参照してください。

CHMフォーマットのマニュアルを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 エクスプローラを起動します。
- 2 AssetCenterインストールフォルダのdoc\chmサブフォルダ（通常、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\doc\chmです）の内容を表示します。
- 3 対応するCHMファイル（.chm拡張子）を開きます。

CHMフォーマット（コンパイル済みHTML）のメインオンラインヘルプ

Windowsクライアント

CHMフォーマットの各マニュアルは、メインオンラインヘルプでグループにされています。

オンラインヘルプを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 以下のいずれかの手順を1つ実行します。
 - **[F1]** を押します。
 - **[ヘルプ/トピックの検索]** メニューにアクセスします。

Webクライアント

この機能は利用できません。

BASICスクリプトの状況依存ヘルプ

Windowsクライアント

BASICスクリプト関数のヘルプを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 スクリプトエディタウィンドウを表示します（フィールドやリンクの設定スクリプト、"Script"タイプアクション、ウィザードスクリプト）。
- 3 関数の名前を選択します。
- 4 キーボードの **[F1]** を押します。

Webクライアント

この機能は利用できません。

データベースのフィールドおよびリンクでの状況依存ヘルプ

Windowsクライアント

データベースでフィールドやリンクのヘルプを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 フィールドやリンクを含む詳細を表示します。
- 3 フィールドやリンクを選択します。
- 4 以下のいずれかの手順を1つ実行します。
 - キーボードで **[Shift+F1]** キーを押します。
 - **[フィールドのヘルプ]**
 - **[ヘルプ/フィールドのヘルプ]** メニュー

Webクライアント

この機能は利用できません。

ホワイトペーパー

AssetCenterに付属のホワイトペーパーにより、マニュアルには説明のない補足的な技術関連情報、業務関連情報が得られます。

ホワイトペーパーは、次のいずれかのフォルダにあります。

- AssetCenterインストールフォルダのサブフォルダ `doc\white_papers` (通常 `C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\doc\white_papers`)
- AssetCenterインストールCD-ROM上の `ac\C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\doc\white_papers` フォルダ

CD-ROMに収められているホワイトペーパーの概要については、`White_papers` フォルダにある *About packaged white papers* PDFを参照してください。

データベース構造に関する情報

説明ファイルは、AssetCenterインストールフォルダの `doc\infos` サブフォルダにあります (通常、`C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\doc\infos` です)。

- `database.rtf` : RTFフォーマットで書かれた、標準AssetCenterデータベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧です。
Microsoft Wordを使用して、このドキュメントを表示してください。
- `database.txt` : TXTフォーマットで書かれた、標準AssetCenterデータベースのテーブル、フィールド、リンク、インデックスの一覧です。
スプレッドシートアプリケーションを使用して、このドキュメントを表示してください。

- **tables.txt** : TXTフォーマットで書かれた、標準AssetCenterデータベースのテーブルの一覧です。
スプレッドシートアプリケーションを使用して、このドキュメントを表示してください。
- **diffxyz.xml** (xyzはAssetCenterバージョン番号に対応) : XMLフォーマットで書かれた、バージョンxyzと5.01間における、標準AssetCenterデータベース構造の差異の一覧です。
XMLエディタを使用して、このドキュメントを表示してください。
- **diffxyz.html** (xyzはAssetCenterバージョン番号に対応) : HTMLフォーマットで書かれた、バージョンxyzと5.01間における、標準AssetCenterデータベース構造の差異の一覧です。
HTMLエディタやインターネットブラウザを使用して、このドキュメントを表示してください。

オンラインマニュアル

AssetCenter 5.01の補足マニュアルを、以下のアドレスのHPのサポートサイトからダウンロードできます。

www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support

このサイトにアクセスするには、ユーザ名とパスワードが必要になります。

マニュアルの一覧と説明

マニュアルの場所については、▶「PDFフォーマット (Adobe Acrobat) のマニュアル [献 11]」を参照してください。

注意:

以下に挙げるPDFファイルの名前は、「*<マニュアル識別子>」というフォーマットを持ちます。

最初のアスタリスク (*) は、マニュアル作成時でのソフトウェアとソフトウェアバージョンの識別子に対応します。

2番目のアスタリスク (*) は、マニュアルの言語識別子に対応します。

*AC501-Installation-EN*などです。

*AC501-Installation-EN*は、AssetCenterのバージョン501に対応します。

*EN*は英語に対応します。

インストール

インストールとアップグレード

PDFファイル名	CHMファイル名
<u>*Installation*.pdf</u>	<u>installation.chm</u>

本マニュアルの説明内容を以下に挙げます。

- AssetCenterに含まれるプログラム
- AssetCenterが機能する環境
- 旧バージョンのAssetCenterのアップグレード方法
- AssetCenterとAssetCenter Webをはじめてインストールする方法
- AssetCenterの設定方法
- AssetCenterの性能の最適化

本マニュアルは、以下に挙げる作業を必要とする技術者を対象としています。

- AssetCenterとAssetCenter Webの初回のインストール
- AssetCenterの旧バージョンのアップグレード

マイグレーション

PDFファイル名	CHMファイル名
<u>*Migration*.pdf</u>	<u>migration.chm</u>

本マニュアルは、以下の作業の実行方法について説明します。

- 旧フォーマットのデータベースの5.01フォーマットへの変換
 - AssetCenterプログラムの5.01バージョンへのアップグレード
- マイグレーションは、以下の作業を担当する技術者が実行します。
- AssetCenterデータベースの管理
 - AssetCenterのインストール
 - AssetCenterの展開

はじめに

概念と実装

PDFファイル名	CHMファイル名
<u>*ConceptsAndImplementation*.pdf</u>	<u>concepts.chm</u>

本マニュアルは、ポートフォリオ管理の概要と、AssetCenterでの組織のポートフォリオ管理の方法について説明します。

本マニュアルは、AssetCenterの概要把握が必要な任意のユーザを対象としています。

- ITマネージャ
- 組織マネージャ
- プロジェクトディレクタおよびマネージャ（設定、研修、プロジェクト計画/記録、品質管理など）。
- 統合プロジェクトマネージャ
- 管理者
- 一般ユーザ



注意:

特定モジュールでのみ作業を行うユーザは、そのモジュールのマニュアルを直接的に参照できます。

製品レビューガイド

PDFファイル名

CHMファイル名

ProductReviewGuide.pdf reviewguide.chm

本マニュアルの目的は、AssetCenterの前提知識を持たない読者に対し、**資産トラッキング**と**経費制御**の各プロセスに関して実行可能な共通タスクの一部分の概要を示すことです。

本マニュアルを読み終えると、AssetCenterを使用して得られる主なメリットを把握していただけます。

本マニュアルは、以下に挙げるAssetCenterの能力評価を行う任意のユーザを対象としています。

- 報道関係者
- 専門技術者
- コンサルタント

資産トラッキングソリューション

PDFファイル名

CHMファイル名

AssetTrackingSolution.pdf actracking.chm

本マニュアルにより、以下の疑問に対する答えが得られます。

- 資産トラッキングソリューションとは?
- 資産トラッキングソリューションによって期待されるメリットは?
- 資産トラッキングソリューションの実装は誰が担当すべきか?

本マニュアルは、以下に挙げるAssetCenterの能力評価を行う任意のユーザを対象としています。

- 報道関係者
- 専門技術者
- コンサルタント

経費制御ソリューション

PDFファイル名	CHMファイル名
ExpenseControlSolution.pdf	expensecontrol.chm

本マニュアルにより、以下の疑問に対する答えが得られます。

- 経費制御ソリューションとは?
- 経費制御ソリューションによって期待されるメリットは?
- 経費制御ソリューションの実装は誰が担当すべきか?

本マニュアルは、以下に挙げるAssetCenterの能力評価を行う任意のユーザを対象としています。

- 報道関係者
- 専門技術者
- コンサルタント

バージョン3.xと4.x間の違い

PDFファイル名	CHMファイル名
DifferencesBetweenVersions3xAnd4x.pdf	differencesbetversions.chm

本マニュアルは、バージョン3.xと4.0.0間における、AssetCenterの大きな変更点を説明します。

マニュアルの内容を以下に挙げます。

- バージョン3.xと4.x間でのモジュールごとの比較
- 新しい概念の説明
- 新しい機能の説明
- 新しいテーブルの一覧

本マニュアルの対象者を以下に挙げます。

- AssetCenterバージョン3.xのアップグレードを実行する技術者
- バージョン3.xから5.01までのAssetCenterの変遷内容を把握する必要がある、モジュールスペシャリスト

バージョン4.0.0以降に行われたAssetCenterの変更点は、『リリースノート』マニュアルで説明しています。

基本機能

はじめに

PDFファイル名	CHMファイル名
<u>*UserInterface*.pdf</u>	<u>userinterface.chm</u>

本マニュアルは、AssetCenterの使用方法について説明します。

- レコードの検索
- レコードの編集
- データの印刷
- データベースへの接続
- ウィザードの使用
- メッセージの送受信
- 変更履歴の表示
- アラームのスケジュール
- WindowsクライアントとWebクライアント間の違いの把握

本マニュアルは、すべてのAssetCenterユーザを対象としています。

アクセシビリティオプション

PDFファイル名	CHMファイル名
<u>*AccessibilityOptions*.pdf</u>	<u>accessibility.chm</u>

本マニュアルは、標準AssetCenter Windowsユーザインタフェースでは閲覧に困難のあるユーザを対象としています。

本マニュアルは、以下の作業の実行方法について説明します。

- Windowsクライアントの視覚的外観の変更
- スクリーンリーダーソフトウェアの使用
- マウスを使用しないナビゲート

共通テーブル

PDFファイル名	CHMファイル名
<u>*CommonTables*.pdf</u>	<u>commontables.chm</u>

本マニュアルは、すべてのAssetCenterモジュールで使用されるテーブルについて説明します。

- 部署と従業員
- 場所
- サプライヤ

- フロアプラン
- 任意管理項目
- ドキュメント
- ニュース

本マニュアルは、すべてのAssetCenterユーザを対象としています。

ポートフォリオ

PDFファイル名 CHMファイル名
Portfolio.pdf portfolio.chm

本マニュアルは、ポートフォリオモジュールの使用方法について説明しています。

- 概要
- ポートフォリオの構成
- ポートフォリオモジュールの使用
- ITポートフォリオ
- 電話機
- ソフトウェア
- 作業指示とプロジェクト
- 調整項目
- 用語集

本マニュアルは、ポートフォリオモジュールの使用者や実装者を対象としています。

契約

PDFファイル名 CHMファイル名
Contracts.pdf contracts.chm

本マニュアルは、さまざまなタイプの契約の管理方法について説明します。

- 保険
- リース明細
- メンテナンス
- ライセンス
- アプリケーションサービス
- 一括発注

本マニュアルは、契約モジュールの使用者や実装者を対象としています。

ソフトウェア資産

PDFファイル名 CHMファイル名

SoftwareAssets.pdf sam.chm

本マニュアルは、ソフトウェア資産の、ライフサイクルでの各フェーズにおける管理、制御、保護の方法について説明します。

本マニュアルは、以下に挙げる項目の実行が必要なユーザを対象としています。

- ソフトウェア契約データベースの入力
- ソフトウェアライセンスデータベースの入力（ソフトウェアアプリケーションの使用権限の取得）
- インストールデータベースの入力（ソフトウェアアプリケーションの使用権限の消費）
- インストールがライセンスに準拠していることの監視
- ソフトウェアポートフォリオの管理（インストール、アップデート）

ファイナンス

PDFファイル名 CHMファイル名

Financials.pdf financials.chm

本マニュアルは、ファイナンスモジュールの使用方法について説明しています。

- 通貨
- 経費
- 固定資産
- 税金
- TCO（総所有コスト）
- 経費付替え

本マニュアルは、ファイナンスモジュールの使用者や実装者を対象としています。

ケーブル

PDFファイル名 CHMファイル名

CableAndCircuit.pdf cable.chm

本マニュアルは、ケーブルモジュールの使用方法について説明しています。

- 概要
- 実用例
- 実装
- 成端場所、ケーブルデバイス、ケーブル、接続の作成

- トレースの表示
- 用語集
- 参照情報

本マニュアルは、ケーブルモジュールの使用者や実装者を対象としています。

ソフトウェア配布ツールとの統合

PDFファイル名	CHMファイル名
IntegrationWithSoftwareDistributionTools.pdf	softdist.chm

本マニュアルは、AssetCenterとソフトウェア配布ツールとの統合方法について説明します。

このような統合では、具体的には以下のようなことを実行します。

- 1 AssetCenterを使用して、スケジュールされたタスクを作成します。

注意:

スケジュールされたタスクを使用して、ソフトウェアパッケージの配布や、対象コンピュータのセット上でのスクリプトの実行を行います。

- 2 配布ツールを使用して、AssetCenterで定義されたスケジュールされたタスクを実行します。

本マニュアルは、ソフトウェア配布を担当するITチームメンバを対象としています。

調達

PDFファイル名	CHMファイル名
Procurement.pdf	procurement.chm

本マニュアルは、AssetCenterを使用して製品やサービスの調達を管理する方法について説明します。

- ポートフォリオ品目
- 作業指示
- 契約
- 契約の使用
- 研修
- ケーブル

本マニュアルは、調達モジュールの使用者や実装者を対象としています。

高度な機能

高度な使い方

PDFファイル名	CHMファイル名
AdvancedUse.pdf	advanceduse.chm

本マニュアルは、AssetCenterの高度な機能の使用方法について説明します。

- リストデータ
- 履歴
- AQLクエリ
- 書式
- Crystal Reports
- コントロールパネル
- アクション
- メッセージ
- ワークフロー
- データエクスポート
- スクリプト
- カレンダー
- タイムゾーン
- 特殊フィールド
- ウィザード
- ニュース

本マニュアルは、上級ユーザを対象としています。

『管理』マニュアルが本マニュアルを補完します。

管理

PDFファイル名	CHMファイル名
Administration.pdf	administration.chm

本マニュアルは、以下の作業の実行方法について説明します。

- AssetCenter Database Administratorの使用
- データベースの作成、変更、削除
- データベースへのアクセス
- データのアーカイブ
- データの非正規化
- データのインポート
- データベースへのアクセスの制御

- AssetCenterサーバの使用
- メッセージの使用
- DDEサーバとしてのAssetCenterの使用

本マニュアルは、AssetCenter管理者と上級ユーザを対象としています。

カスタマイズ

PDFファイル名 CHMファイル名

Tailoring.pdf tailoring.chm

本マニュアルは、AssetCenterのカスタマイズ方法について説明します。

- クライアントワークステーションのインターフェースのカスタマイズ
- データベースのカスタマイズ

本マニュアルは、すべてのAssetCenterユーザと管理者を対象としています。

照合更新

PDFファイル名 CHMファイル名

Reconciliation.pdf reconciliation.chm

本マニュアルは、外部ツールから得られたデータを使用して、AssetCenterデータベースにあるレコードを更新する方法について説明します。

入力されるデータがターゲットのアプリケーション内に存在するかどうかで、処理が変わってきます。

- もし存在しなければ、入力データを挿入します。
- 既に存在する場合は、入力データに含まれる情報を基に既存データを更新します。

本マニュアルの対象者を以下に挙げます。

- データベースの更新を自動化したいと思っているAssetCenter管理者
- AssetCenterで照合更新提案を処理する担当ユーザ

プログラマーズリファレンス

PDFファイル名 CHMファイル名

ProgrammersReference.pdf progref.chm

本マニュアルは、AssetCenterのプログラミングライブラリの使用方法について説明します。

リファレンスの内容を以下に挙げます。

- 各機能の詳細な説明
- ドメイン別（調達など）の機能の目次

- 機能の使用方法

本マニュアルは、Windows環境でプログラムを行い、以下の作業の実行を計画している任意のユーザを対象としています。

- AssetCenter APIの使用
- フィールドやリンクの設定スクリプトの作成
- スクリプトタイプのアクションの作成
- ウィザードの作成

チューニング

PDFファイル名	CHMファイル名
----------	----------

Tuning.pdf	tuning.chm
--------------	------------

本マニュアルは、AssetCenterのチューニングストラテジについて説明します。特に、以下の事柄が原因で発生するボトルネックを削減するための技術を取り扱います。

- ネットワーク
- データベースサーバ
- AssetCenterクライアント
- データベースエンジン

本マニュアルは、AssetCenter管理者を対象としています。

自動ソフトウェアメカニズム

PDFファイル名	CHMファイル名
----------	----------

AutomaticSoftwareMechanisms.pdf	autosoftmechan.chm
-----------------------------------	--------------------

本マニュアルは、AssetCenterでデータの処理に使用される自動ソフトウェアメカニズムについて説明します。

本マニュアルの対象者を以下に挙げます。

- データベース管理者
- AssetCenterデータベースの実装、カスタマイズのいずれかまたは両方の担当者

物理データモデル

PDFファイル名	CHMファイル名
----------	----------

PhysicalDataModels.pdf	使用不可能
--------------------------	-------

本マニュアルは、物理データモデルの図を説明しています。

これら図のそれぞれには、AssetCenterモジュールが使用するテーブルが含まれています。

データベース構造を把握することで、以下の作業が実行可能になります。

- クエリの作成
- データベースのカスタマイズ
- ユーザプロファイルの定義
- AssetCenterユーザインタフェースを使用しないデータベースへのアクセス
- データのインポートやエクスポート

本マニュアルは、データベース構造の把握が必要な任意のユーザを対象としています。

データベース構造

PDFファイル名	CHMファイル名
使用不可能	dbstructure.chm

本マニュアルは、標準AssetCenterデータベースの全体構造について説明します（.chmフォーマットのみでの提供です）。

- テーブル
- フィールド
- リンク
- インデックス
- 自動バックグラウンドプロセス

互換対応表

AssetCenter 5.01の使用に必要なハードウェアおよびソフトウェアの互換対応表についても、以下のアドレスにあるHPサポートサイトでご覧いただけます。

www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support

このサイトにアクセスするには、ユーザ名とパスワードが必要になります。

3 新機能

この章では、各バージョンでAssetCenterに追加された新機能について説明します。

バージョン5.01

Webクライアント：改良点

本節では、Webクライアントの改良点について説明します。

レコードの編集

従来のバージョンでは、レコードの詳細は常に編集モードでした。

バージョン5.01からは、レコードの詳細はデフォルトで閲覧モードで表示されます。これにより、表示速度が向上します。

レコードを編集するには、以下の手順を実行します。

- 1 レコードの詳細を表示します。
- 2 **【変更】** をクリックします。

重要項目:

編集モードに切り替えるためのWebクライアントの [変更] ボタンは、変更を保存するためのWindowsクライアントの [変更] ボタンとは完全に機能が異なります。

カーソルがフィールドやリンクの編集領域から離れる際の詳細画面の更新

全般

従来のバージョンでは、他のフィールドおよびリンクの**必須、読取り専用、無関連、デフォルト**の各スクリプトを再計算するために、画面が更新されていました。

バージョン5.01ではこの動作が最適化されています。他のフィールドやリンクの**必須、読取り専用、無関連、デフォルト**のスクリプトが参照するフィールドやリンクが変更された場合のみ、詳細画面が更新されます。

しかし、以下に挙げる場合、更新はトリガされません。

- フィールドのデータタイプが以下のリストに該当する場合
 - 金額
 - テキスト
 - カスタムリストデータ（リストデータが開いている場合）。
- 特殊フィールドやテーブル説明文字列を参照するスクリプト

例外時での更新の強制

与えられたフィールドやリンクが上記には当てはまらない場合（唯一の例外）、以下のファイルとパラメータを変更することで、更新を強制できます。

- Tomcatがアプリケーションサーバの場合
AssetCenter.xmlファイル
*Refresh.fields*パラメータ

入力値 カーソルが編集領域から離れると、詳細画面が自動的に更新される必要のあるフィールドおよびリンクのリスト。

シンタックス:

<短縮された画面1のSQL名>:<短縮されたフィールド1やリンク1のSQL名>|...|<短縮された画面nのSQL名>:<短縮されたフィールドnやリンクnのSQL名>

短縮SQL名とは、最初の2文字の*am*が削除されたSQL名のことです。

例 <Environment name="Refresh.fields" value="Employee:Field1|Employee:Field2" type="java.lang.String" override="false"/>

- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

web.xmlファイル *Refresh.fields*パラメータ

入力値 カーソルが編集領域から離れると、詳細画面が自動的に更新される必要のあるフィールドおよびリンクのリスト。

シンタックス：

<短縮された画面1のSQL名>:<短縮されたフィールド1やリンク1のSQL名>|...|<短縮された画面nのSQL名>:<短縮されたフィールドnやリンクnのSQL名>

短縮SQL名とは、最初の2文字の*am*が削除されたSQL名のことで。

例

```
<env-entry>  
<env-entry-name>Refresh.fields</env-entry-name>  
<env-entry-value>Employee:Field1|Employee:Field2</env-entry-value>  
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>  
</env-entry>
```

AssetCenter Web Tier AssetCenter.xmlとweb.xmlの各ファイルの変更方法については、▶「[AssetCenter Web Tierの設定 \[献 35\]](#)」を参照してください。

Excelへのリストのエクスポート


従来のバージョンではExcelへのエクスポートは実行できませんでした。

バージョン5.01では、メインリスト（ナビゲーションバーにあるリンクをクリックすると表示されるテーブルのレコード一覧）から、Excelにエクスポートできるようになりました。

以下のタイプのリストからは、実行できません。

- タブリスト（レコードの詳細のタブ上に表示されるリスト）
- ウィザードリスト（ウィザードページに表示されるリスト）

リストをExcelにエクスポートするには、以下の手順を実行します。

- 1 リストを表示します。
- 2 リスト上にあるアイコンをクリックします。

Excelが自動的に起動します（Excelのパスを指定する必要はありません）。

リストの内容と列名がエクスポートされます。以下の基準が適用されます。

- リストに適用されているフィルタ（存在する場合）
- リストに適用されているソート順序
- エクスポートされる最大行数を定義するパラメータ

エクスポートする行数を定義するには、以下の手順を実行します。

エクスポートされる行数を定義するには、以下のファイルとパラメータを変更します。

- Tomcatがアプリケーションサーバの場合

AssetCenter.xmlファイル
*maxLoadCount*パラメータ (追加)

入力値 Excelにエクスポートできる最大行数

例

```
<Environment name="maxLoadCount" value="10000" type="java.lang.Integer" override="false"/>
```

- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

web.xmlファイル

*maxLoadCount*パラメータ

入力値 Excelにエクスポートできる最大行数

例

```
<env-entry>  
<description>Excelにエクスポートする行の最大数</description>  
<env-entry-name>maxLoadCount</env-entry-name>  
<env-entry-value>10000</env-entry-value>  
<env-entry-type>java.lang.Integer</env-entry-type>  
</env-entry>
```

AssetCenter Web Tier AssetCenter.xmlとweb.xmlの各ファイルの変更方法については、▶「[AssetCenter Web Tierの設定 \[献 35\]](#)」を参照してください。

リストに表示される行数の定義

従来のバージョンでは、ユーザはリストに表示される行数は定義できませんでした。

バージョン5.01では、以下に挙げるタイプのリストで行数を定義できます。

- メインリスト (ナビゲーションバーにあるリンクをクリックすると表示されるテーブルからのレコードのリスト)
- タブリスト (レコードの詳細のタブ上に表示されるリスト)
- ウィザードリスト (ウィザードのページに表示されるリスト)

リストに表示される行数を定義するには、以下のファイルとパラメータを変更します。

- Tomcatがアプリケーションサーバの場合

AssetCenter.xmlファイル

*numberOfDocumentsPerPage*パラメータ :

入力値 リストに表示する行の最大数

例 <Environment name="numberOfDocumentsPerPage" value="20" type="java.lang.Integer" override="false" />

- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合
web.xmlファイル
*numberOfDocumentsPerPage*パラメータ :

入力値 リストに表示する行の最大数

例 <env-entry>
<env-entry-name>numberOfDocumentsPerPage</env-entry-name>
<env-entry-value>20</env-entry-value>
<env-entry-type>java.lang.Integer</env-entry-type>
</env-entry>

AssetCenter Web Tier AssetCenter.xmlとweb.xmlの各ファイルの変更方法については、▶「[AssetCenter Web Tierの設定 \[献 35\]](#)」を参照してください。

アクセシビリティ

本節では、AssetCenterで利用可能なアクセシビリティオプションに対して施された改良点について説明します。

スクリーンリーダソフトウェアとの統合

必須フィールドやリンクを指定するのにスクリーンリーダソフトウェアが読み取るテキストを変更するには、以下のファイルとパラメータを変更します。

- Tomcatがアプリケーションサーバの場合
AssetCenter.xmlファイル
*MandatoryHintText*パラメータ :

入力値 必須フィールドやリンクを指定するのにスクリーンリーダソフトウェアが読み取るテキスト

例 <Environment name="MandatoryHintText" value="必須フィールドや必須リンク" type="java.lang.String" override="false"></Environment>

- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合
web.xmlファイル
*MandatoryHintText*パラメータ :

入力値 必須フィールドやリンクを指定するのにスクリーンリーダソフトウェアが読み取るテキスト

例

```
<env-entry>  
<env-entry-name>MandatoryHintText</env-entry-name>  
<env-entry-type>java.lang.String</env-entry-type>  
<env-entry-value>必須フィールドや必須リンク</env-entry-value>  
</env-entry>
```

AssetCenter Web Tier AssetCenter.xmlとweb.xmlの各ファイルの変更方法については、▶「[AssetCenter Web Tierの設定 \[献 35\]](#)」を参照してください。

視覚的外観の変更

WebクライアントがInternet Explorerの拡大フォントサイズを正しくサポートします。

リンクの自動補完

バージョン5.01では、リンクに入力する際、レコードの最初の数文字を入力するだけで済みます。

Webクライアントがレコードを自動的に補完します。

ユーザが入力した文字ではじまるレコードが1つのみの場合、Webクライアントは、自動的に入力を補完します。

レコードが複数存在する場合、ユーザが入力したのと同じ文字ではじまる、前もって定義された数のレコードを含むドロップダウンリストがWebクライアントに表示されます。

リンクが対象とするテーブルの説明文字列上で検索を実行できます。

ドロップダウンリストが入力した通りに更新されます。

注意:

この機能は、Web2.0 (AJAX) テクノロジーを使用しています。

ドロップダウンリストから特定レコードを選択するには、以下の手順を実行します。

以下のアクションのいずれか1つを実行します。

- レコードを選択します（レコードをクリックします）。
リンク編集領域は選択されたままになります。
- [上] または [下] 矢印キーを使用して、目的のレコードを選択してから、
 - [Enter] を押します。
リンク編集領域は選択されたままになります。
 - [Tab] を押します。
画面上の新規オブジェクトが選択されます。
 - [Shift] と [Tab] を同時に押します。
画面上の前のオブジェクトが選択されます。

自動補完を強制するには、以下の手順を実行します。

通常、Webクライアントはレコードの補完やドロップダウンリストの表示を自動的に行います。

しかし、Webクライアントが自動補完を行わない場合、[右] 矢印キーを押して自動補完をアクティブにできます。

リンクを削除するには、以下の手順を実行します。

- 1 メインレコードの詳細を表示します。
- 2 編集モードをアクティブにします（[変更] ボタン）。
- 3 リンク編集領域からテキストを削除します。
- 4 [保存] ボタンをクリックします。

ドロップダウンリストに表示されるレコード数を定義するには、以下の手順を実行します。

ドロップダウンリストに表示されるレコード数を定義するには、以下のファイルとパラメータを変更します。

- Tomcatがアプリケーションサーバの場合
AssetCenter.xmlファイル
*linkeditCompletionSize*パラメータ（追加）

入力値 リストに表示する行の最大数

例 <Environment name="linkeditCompletionSize" value="10" type="java.lang.Integer" override="false" />

- WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合
web.xmlファイル
*linkeditCompletionSize*パラメータ

入力値 リストに表示する行の最大数

例 <env-entry>
<description>Size linkedit popup</description>
<env-entry-name>linkeditCompletionSize</env-entry-name>
<env-entry-value>10</env-entry-value>
<env-entry-type>java.lang.Integer</env-entry-type>
</env-entry>

AssetCenter Web Tier AssetCenter.xmlとweb.xmlの各ファイルの変更方法については、▶「AssetCenter Web Tierの設定 [献 35]」を参照してください。

Internet Explorer 7のサポート

AssetCenter Webクライアントは、Internet Explorer 7で実行できます。

Webクライアントのナビゲーションは、単一Internet Explorerタブでのみ実行できます。

複数のInternet Explorerタブは使用できません。

また、既存のWebクライアントインスタンスから開いた複数のInternet Explorerウィンドウは使用できません。

注意:


しかし、Webクライアントの同時インスタンスを実行する、異なるInternet Explorerセッションを開始することはできません（接続時に毎回ログインとパスワードを使用）。

日付フィールドでのアラーム

従来のバージョンのWebクライアントでは、ユーザは [日付] フィールドにアラームを設定できませんでした（Windowsクライアントを通じてのみ実行できました）。

バージョン5.01では可能になりました。

日付フィールドのアラームを定義するには、以下の手順を実行します。

- 1 レコードが既に作成されていて、**表示**モードで表示されている必要があります（**編集**モードではありません）。
- 2 [日付] フィールドを持つタブを表示します。
- 3  アイコンをクリックします。
- 4 アラームの詳細を入力します。
- 5 アラームの詳細を終了します。
- 6 レコードの詳細を保存します。

日付フィールドのアラームを定義可能にするには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter Database Administratorを開始します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 テーブルを選択します。
- 4 ページを選択します。
- 5 システムページを変更するには、最初にそのページを複製する必要があります（システムページは変更できません）。
- 6 ページの詳細にある [内容] タブをクリックします。
- 7 [フィールドのリスト] リストで、フィールドのSQL名の最初に「ComboAlarm-」文字列を追加します。
たとえば、フィールドのSQL名が「dStart」であれば、

「ComboAlarm-dStart」とします。

AssetCenter Web Tierの設定

以下の新規オプションが設定可能です。

- ▶カーソルがフィールドやリンクの編集領域から離れる際の詳細画面の更新 [献 28]
- ▶エクスポートする行数を定義するには、以下の手順を実行します。 [献 29]
- ▶スクリーンリーダーソフトウェアとの統合 [献 31]

本節では、使用しているアプリケーションサーバに応じたパラメータの変更方法について説明します。

Tomcatがアプリケーションサーバの場合

- 1 AssetCenter Webアプリケーションサーバにアクセスします。
- 2 Tomcatがアプリケーションのオプション変更時に自動的に再開始するように構成されていない場合、Tomcatを停止します。
- 3 テキストエディタを起動します。
- 4 Tomcatのconf\catalina\localhostフォルダで、AssetCenter.xmlファイルを開きます。
- 5 パラメータを変更します。
- 6 AssetCenter.xmlファイルで行った変更を保存します。
- 7 テキストエディタを終了します。
- 8 停止した場合はTomcatを起動します。

WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

- 1 AssetCenter Webアプリケーションサーバにアクセスします。
- 2 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphereフォルダを開きます。
- 3 AssetCenter-webtier.ear ファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear_buildフォルダに展開します。
- 4 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear_buildフォルダを開きます。
- 5 AssetCenter.war ファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter.war_buildフォルダに展開します。
- 6 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter.war_build\WEB-INF\web.xmlファイルを編集します。
- 7 パラメータを変更します。
- 8 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter.war_buildフォルダを開きます。

- 9 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 10 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter.war_build\AssetCenter.warファイルとして圧縮します。
- 11 ファイルをコピーします。
- 12 それをC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear_buildフォルダに貼り付けます（旧ファイルを上書き）。
- 13 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter.war_buildフォルダを削除します。
- 14 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear_buildフォルダを開きます。
- 15 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 16 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webtier.ear_build\AssetCenter-webtier.earファイルとして圧縮します。
- 17 WebSphere Application Serverを停止します（[スタート/プログラム/IBM **WebSphere**/サーバーの停止]メニュー）。
- 18 WebSphere Application Serverを起動します（[スタート/プログラム/IBM **WebSphere**/サーバーの始動]メニュー）。

リース管理：変更点

賃貸料に関する注意

リースモジュールは、資産レベルでの直接的な定義ではなく、契約レベルで賃貸料を定義するように設計されています。

リースモジュールの変更の理由

バージョン5.00では、以下に挙げる一部のモジュールコンポーネントがWebクライアントから利用できませんでした。

- 資産の追加
- 資産の検収
- 資産の買い取り
- 資産の更新
- 賃貸料の比例配分計算を行う資産の選択
- 損失額計算規則の詳細での線形配分による損失率の作成
- 損失額の計算

バージョン5.00では、以下に挙げる一部のモジュールコンポーネントがユーザーレンドリではありませんでした。

- リース明細の詳細にある【オプション】タブのアーキテクチャ
- 従来では、【賃貸料の比例配分】(seProrateRule) フィールドは、SQL名ではなくシステム名を格納し、非常に多くのフィールドを含むリストを表示していました。
- デフォルトで、リース作成時にリースに添付される賃貸料はありませんでした。
- リースと損失額計算に使用していた用語が一部の場合に不明瞭でした。

リース管理：変更点

現バージョンと従来のバージョンのリースモジュールの使用

デフォルトで、リースモジュールの最新バージョンが有効です（これにより、WebクライアントとWindowsクライアントから同一コンポーネントにアクセス可能になります）。

従来のリース管理モードを有効にするには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 従来のリース管理モードを使用するデータベースに接続します。
- 3 【管理/データベースオプション】メニューで、データベースオプションを表示します。
- 4 【リース/リースモジュールの旧バージョンを使用】オプションを選択します。
- 5 このオプションを【はい】に設定します。
- 6 確認します（【OK】ボタン）。
- 7 データベースに再接続し、オプションの新しい値を適用します。

Windowsクライアント：【ファイル/データベースに接続】メニュー

Webクライアント：🖱️アイコンをクリックしてから、【再接続】リンクをクリックします。

資産のリース明細への追加

資産のリース明細への追加を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、資産を追加していました。これを現バージョンでは、【資産の追加...】(sysLeaseWAssetAdd) ウィザードで行います。

資産をリース明細に追加するには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの【契約/リース/リース明細】リンク）。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 【資産(リース)】タブを表示します。

- 4 Windowsクライアント： **[+]** ボタンをクリックします。
Webクライアント： **[追加]** ボタンをクリックします。
 [資産の追加...] ウィザード (sysLeaseWAssetAdd) が開始します。
- 5 ウィザードのページに入力します。

リース明細下の資産の検収

リース明細下の資産の検収を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、資産を検収していました。これを現バージョンでは、**[資産の検収...]** (sysLeaseWAssetAccept) ウィザードで行います。

リース明細下の資産を検収するには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します (ナビゲーションバーの **[契約／リース／リース明細]** リンク)。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 Windowsクライアント： **[検収]** をクリックします。
Webクライアント： **[検収]** を **[アクション...]** ドロップダウンリストから選択します。
- 4 ウィザードのページに入力します。

リース明細下の資産の買い取り

リース明細下の資産の買い取りを、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、資産を買い取っていました。これを現バージョンでは、**[資産の買い取り...]** (sysLeaseWAssetPurchase) ウィザードで行います。

リース明細下の資産を買い取るには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します (ナビゲーションバーの **[契約／リース／リース明細]** リンク)。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 Windowsクライアント： **[買い取り]** をクリックします。
Webクライアント： **[買い取り]** を **[アクション...]** ドロップダウンリストから選択します。

警告:

これが実行可能となるのは、**[オプション]** タブの **[買い取り許可]** (bPurchOpt) オプションが選択されている場合のみです。

- 4 ウィザードのページに入力します。

リース明細下の資産の更新

リース明細下の資産の更新を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、資産を更新していました。これを現バージョンでは、**【資産の更新...】** (sysLeaseWAssetRenew) ウィザードで行います。

リース明細下の資産を更新するには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します (ナビゲーションバーの **【契約／リース／リース明細】** リンク)。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 Windowsクライアント： **【更新】** をクリックします。

Webクライアント： **【更新】** を **【アクション...】** ドロップダウンリストから選択します。

警告:

これが実行可能となるのは、**【オプション】** タブの **【更新許可】** (bRenOpt) オプションが選択されている場合のみです。

- 4 ウィザードのページに入力します。

賃貸料比例配分計算を行う資産の選択

賃貸料比例配分計算を行う資産の選択を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、資産を選択していました。これを現バージョンでは、**【賃貸料の比例配分計算が対象とする資産のリストの変更...】**

(sysLeaseWAddAssetRent) ウィザードで行います。

賃貸料比例配分計算を行う資産を選択するには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します (ナビゲーションバーの **【契約／リース／リース明細】** リンク)。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 **【賃貸料】** タブを表示します。
- 4 Windowsクライアント：賃貸料をリスト形式で表示します (ショートカットメニューの **【リスト形式で表示】**)。
- 5 賃貸料の詳細を表示します。
- 6 **【選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦】** または **【選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦】** を選択して、**【賃貸料の比例配分】** フィールド (seProrateRule) に入力します。
- 7 入力内容を確認します。

Windowsクライアント： **【変更】** ボタン

Webクライアント： **【保存】** ボタン。

- 8 Windowsクライアント：[資産] をクリックします。
Webクライアント：[資産] を [アクション...] ドロップダウンリストから選択します。
[賃貸料の比例配分計算が対象とする資産のリストの変更] ウィザード (sysLeaseWAddAsset) が開始します。
- 9 ウィザードに入力します。

線形配分による損失率の作成（損失額計算規則）

損失額計算規則の詳細での線形配分による損失率の作成を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、線形配分による損失率を計算していました。これを現バージョンでは、[暫定損失率の作成...] (sysLeaseWLossValGen) ウィザードで行います。

線形配分による損失率を作成するには、以下の手順を実行します。

- 1 損失額計算規則を表示します（ナビゲーションバーにある [契約／リース／損失額の計算規則] リンク）。
- 2 線形配分により損失率を作成する損失額計算規則の詳細を表示します。
- 3 Webクライアント：編集モードに切り替えます（[変更] ボタン）。
- 4 以下のフィールドとリンクを入力します。

フィールドやリンクの名前	フィールドやリンクのSQL名
回数	sePeriodicity
桁数	fPrecision
期間	tsDuration

- 5 入力内容を確認します。
Windowsクライアント：[変更] ボタン
Webクライアント：[保存] ボタン。
- 6 0日での損失率と、最大期間超過後の損失率を作成します。
Windowsクライアント：[+] ボタン
Webクライアント：[追加] ボタン
- 7 Windowsクライアント：入力内容を確認します（[変更] ボタン）。
- 8 Windowsクライアント：[線形配分] をクリックします。
Webクライアント：[線形配分] を [アクション...] ドロップダウンリストから選択します。
- 9 ウィザードのページに入力します。
- 10 ウィザードを終了します（[完了] ボタン）。
- 11 Windowsクライアント：ウィザードを終了します（[OK] ボタン）。

指定日での損失額の計算

損失額の計算を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、損失額を作成していました。これを現バージョンでは、**【指定日の損失額の計算...】** (sysLeaseWLossValCalc) ウィザードで行います。

指定日での損失額を計算するには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します (ナビゲーションバーの **【契約／リース／リース明細】** リンク)。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 **【リース】** タブを表示します。
- 4 Webクライアント：編集モードに切り替えます (**【変更】** ボタン)。
- 5 **【損失額の計算規則】** リンク (LossValRule) が未入力の場合は入力します。
- 6 **【指定した日付で計算】** をドロップダウンリストから選択し、**【計算】** (seLossValCalcMode) フィールドを入力します。
- 7 入力内容を確認します。

Windowsクライアント： **【変更】** ボタン

Webクライアント： **【保存】** ボタン。

- 8 Windowsクライアント： **【計算】** をクリックします。

Webクライアント： **【計算】** を **【アクション...】** ドロップダウンリストから選択します。

- 9 ウィザードのページに入力します。
- 10 ウィザードを閉じます (**【OK】** ボタン)。

全期間の損失額の計算

損失額の計算を、WindowsクライアントとWebクライアントの両方から行えるようになりました。

従来では、画面を通じて、損失額を計算していました。これを現バージョンでは、**【全期間の計算された損失額の表示】** (sysLeaseWLossVal) ウィザードで行います。

指定日での損失額を計算するには、以下の手順を実行します。

- 1 リース明細を表示します (ナビゲーションバーの **【契約／リース／リース明細】** リンク)。
- 2 リース明細の詳細を表示します。
- 3 **【リース】** タブを表示します。
- 4 Webクライアント：編集モードに切り替えます (**【変更】** ボタン)。
- 5 **【損失額の計算規則】** リンク (LossValRule) が未入力の場合は入力します。

- 6 [全期間で計算] をドロップダウンリストから選択し、[計算] (seLossValCalcMode) フィールドを入力します。
- 7 入力内容を確認します。
Windowsクライアント：[変更] ボタン
Webクライアント：[保存] ボタン
- 8 Windowsクライアント：[損失額] をクリックします。
Webクライアント：[損失額] を[アクション...] ドロップダウンリストから選択します。
- 9 Webクライアント：アクションの実行を確認します（[はい] ボタン）。
- 10 Webクライアント：[指定された契約に適用可能な損失額] リンクをクリックします。
- 11 Windowsクライアント：ウィザードを終了します（[閉じる] ボタン）。

リース明細の詳細にある [オプション] タブのアーキテクチャ

リース明細の詳細にある [オプション] タブ上の情報の配置が変更され、さらに読みやすくなりました。

賃貸料の詳細にある [比例配分方法] (seProrateRule) フィールド

このフィールドは、従来のバージョンよりも適切な値のリストを与えます。

[比例配分方法] フィールドでは、今でもSQL名ではなく、賃貸料配賦方法の参照フィールドのシステム名を格納しています。

しかし、[比例配分方法] フィールドをさらに使いやすくするため、以下の要素がAssetCenterに追加されています。

- *strMonetaryName* スクリプト
このスクリプトは、*LeasingLib* スクリプトライブラリの一部です（ナビゲーションバーにある [管理/スクリプト] リンク）。
このスクリプトを使用して、賃貸料配賦方法の参照フィールドのシステム名をSQL名に、SQL名をシステム名に変換します。
amEvalScript APIを使用して、このスクリプトを使用します。
このAPIは以下のコンテキストで使用することができます。
 - フィールドやリンクのBasicスクリプト
 - スクリプトタイプのアクション
- [比例配分方法] (sysLeaseProrateField) 特殊フィールド（ナビゲーションバーにある [管理/システム/特殊フィールド] リンク）
この特殊フィールドは、*strMonetaryName* スクリプトを使用します。
このスクリプトを使用して、[比例配分方法] フィールドに格納されている賃貸料配賦方法の参照フィールドのシステム名をSQL名に、SQL名をシステム名に変換します。

【比例配分方法】特殊フィールドを使用して、リストにSQL名を表示できます。
例を確認する方法を以下に挙げます。

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの【契約／リース／リース明細】リンク）。
- 4 リース明細の詳細を表示します。
- 5 【賃貸料】タブを表示します。
- 6 賃貸料をリスト形式で表示します（【リスト形式で表示】ショートカットメニュー）。
- 7 リストの設定を表示します（ショートカットメニューの【ユーティリティ／リストの設定...】）。
- 8 【比例配分方法】列が対応するのは【比例配分方法】特殊フィールドであり、【比例配分方法】フィールドではないことが分かります。

【比例配分方法】に格納されているフィールドのシステム名ではなく、SQL名を参照したいのであれば、フィールドやリンクのBASICスクリプト中やスクリプトタイプのアクションの時は、【比例配分方法】特殊フィールドを使用することもできます。

例を確認する方法を以下に挙げます。

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 リース明細を表示します（ナビゲーションバーの【契約／リース／リース明細】リンク）。
- 4 リース明細の詳細を表示します。
- 5 【賃貸料】タブを表示します。
- 6 賃貸料の詳細を表示します。
- 7 【賃貸料の比例配分】（seProrateRule）フィールドを【すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦】に設定します。
- 8 【比例配分方法】フィールドの設定を表示します（ショートカットメニューの【オブジェクトの設定...】）。
- 9 フィールドのデフォルト値を確認します。

```
RetVal = AmEvalScript("LeasingLib", "strMonetaryName", "", "mMarketVal")
```

リース作成時の賃貸料自動添付

リース作成時に賃貸料をリースに自動的に添付できるようになりました。

この自動メカニズムは、ワークフローチャートで実装されています。

このワークフローチャートは、**契約 - 専門分野**の一部です。

ワークフローチャートを利用可能にするには、バージョン5.01から**契約 - 専門分野データ**をAssetCenterデータベースにインポートする必要があります。

契約 - 専門分野データのインポート方法については、▶『**契約**』マニュアル、「事前準備」の章、「データベース作成時に専門分野データをインポートする」と「専門分野データを既存のデータベースにインポートする」の節を参照してください。

専門分野データをインポートすると、ワークフローチャートが自動的に賃貸料を作成し、作成後にリース明細に添付し、以下のプロパティを設定します。

フィールドやリンクの名前	フィールドやリンクのSQL名	値
説明	説明	デフォルト
主賃貸料	bMainRent	はい

デフォルト賃貸料が自動的に作成されるようにするには何も設定する必要はありません。

リース明細作成時にデフォルト賃貸料が添付されないようにするには、以下の手順を実行します。

- 1 ワークフローチャートを表示します（ナビゲーションバーの【管理／ワークフロー／ワークフローチャート】リンク）。
- 2 【デフォルト賃貸料の作成】（BST_CNTR_RENT）ワークフローチャートを選択します。
- 3 現在の日付よりも前の日付を【終了】（dEnd）フィールドに入力します。
- 4 入力内容を確認します。

Windowsクライアント：【変更】ボタン

Webクライアント：【保存】ボタン

リースと損失額計算に使用する用語

変更されたフィールドラベルとリンクの表を以下に挙げます。

従来の値	新しい値
Windowsクライアントメニュー	
契約／リース明細...	契約／リース明細
ナビゲーションバーのリンク	
契約／リース／リース明細	契約／リース／リース明細
テーブルラベル	
損失額	指定された契約に適用可能な損失額
損失額の損失率	指定された計算規則で定義された損失率
損失率	損失額の計算規則
【ローン】（amLoan）テーブルにある【賃貸料の比例配分】（seProrateRule）フィールド値	

従来の値	新しい値
資産に賃貸料を配分または配賦しない	資産に賃貸料を配分または配賦しない
すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦	すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦
選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦	選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦
すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦	すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦
選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦	選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦
【契約賃貸料】 (amCntrRent) テーブルにある	【比例配分方法】 (ProrateField) フィールド値
資産に賃貸料を配分または配賦しない	資産に賃貸料を配分または配賦しない
すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦	すべての資産に賃貸料を比例配分して配賦
選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦	選択した資産に賃貸料を比例配分して配賦
すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦	すべての資産に1件当りの賃貸料を配賦
選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦	選択した資産に1件当りの賃貸料を配賦

『契約』マニュアル

バージョン5.00で提供された『契約』マニュアルは、バージョン5.01で提供されるのと同じマニュアルです。

このマニュアルには、バージョン5.01での変更はありません。

本リリースノートを読む際には覚えておいてください。

WSDLアクセス時における認証の無効化：新規オプション

従来のバージョンでは、アプリケーションがWSDL (Web Services Description Language) にアクセスする前にAssetCenterユーザが認証を行う必要がありました。

WSDLへの初期接続中、Internet ExplorerはAssetCenterユーザ名とパスワードを要求する認証ウィンドウを表示します。

これにより、AssetCenterデータベースにアクセスする際のセキュリティが強化されます。

バージョン5.01では、デフォルトで認証が有効となっていますが、必要に応じて認証を無効にできます。

これにより、WSDL認証をサポートしないアプリケーションもAssetCenterデータベースにアクセスできるようになります。

注意:

アプリケーションがAssetCenter WSDLにアクセスできるのは、AssetCenterデータベースに格納されているライセンスが、Webサービスへのアクセスを許可する場合のみです。

また、認証が有効である場合、ユーザがWSDLにアクセスできるのは、ユーザのプロファイルにWebサービスへアクセスする機能権限がある場合のみです。

認証を無効にするには、以下の手順を実行します。

Tomcatをアプリケーションサーバとして使用する場合

- 1 AssetCenter Webアプリケーションサーバにアクセスします。
- 2 Tomcatがアプリケーションのオプション変更時に自動的に再開始するように構成されていない場合、Tomcatを停止します。
- 3 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvcフォルダに変更します。
- 4 AssetCenterWebService.warファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvc\AssetCenterWebService.war_buildフォルダに展開します。
- 5 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvc\AssetCenterWebService.war_build\WEB-INF\application-context.xmlファイルを編集します。
- 6 以下の節からコメントマーク<!--と-->を削除

```
<property name="convertUrlToLowerCaseBeforeComparison">  
<value>true</value>  
</property>
```

- 7 以下の節を検索します。

```
<property name="publicResources">  
<list>  
<value>/index.jsp</value>  
<value>/images/**</value>  
</list>  
</property>
```

- 8 以下の行を追加します。

```
<value>/**/*?wsdl*</value>  
<value>/**/*.xsd</value>
```

- 9 application-context.xmlファイルを保存します。
- 10 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvc\AssetCenterWebService.war_buildフォルダを開きます。
- 11 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 12 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvc\AssetCenterWebService.war_build\AssetCenterWebService.warファイルとして圧縮します。
- 13 ファイルをコピーします。
- 14 それをC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvcフォルダに貼り付けます（旧ファイルを上書き）。
- 15 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websvc\AssetCenterWebService.war_buildフォルダを削除します。

16 Tomcatを停止した場合は起動します。

WebSphere Application Server5.1または6.0がアプリケーションサーバの場合

- 1 AssetCenter Webアプリケーションサーバにアクセスします。
- 2 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphereフォルダを開きます。
- 3 AssetCenter-webservice.earファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear_buildフォルダに展開します。
- 4 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear_buildフォルダに移動します。
- 5 AssetCenterWebService.warファイルを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenterWebService.war_buildフォルダに展開します。
- 6 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenterWebService.war_build\WEB-INF\application-context.xmlファイルを編集します。
- 7 以下の節からコメントマーク<!--と-->を削除します。

```
<property name="convertUrlToLowerCaseBeforeComparison">  
<value>true</value>  
</property>
```

- 8 以下の節を検索します。

```
<property name="publicResources">  
<list>  
<value>/index.jsp</value>  
<value>/images/**</value>  
</list>  
</property>
```

- 9 以下の行を追加します。

```
<value>/**/*?wsdl*</value>  
<value>/**/*.xsd</value>
```

- 10 application-context.xmlファイルを保存します。
- 11 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenterWebService.war_buildフォルダを開きます。
- 12 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 13 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01 xx\websphere\AssetCenterWebService.war_build\AssetCenterWebService.warファイルとして圧縮します。
- 14 圧縮したファイルをクリップボードにコピーします。

- 15 それをC:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01
xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear_buildフォルダに貼り付けます
(旧ファイルを上書き)。
- 16 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01
xx\websphere\AssetCenterWebService.war_buildフォルダを削除します。
- 17 C:\Program Files\HP OpenView\AssetCenter 5.01
xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear_buildフォルダに移動します。
- 18 すべてのファイルとフォルダを選択します。
- 19 これらのファイルとフォルダを、C:\Program Files\HP
OpenView\AssetCenter 5.01
xx\websphere\AssetCenter-webservice.ear_build\AssetCenter-webservice.ear
ファイルとして圧縮します。
- 20 WebSphere Application Serverを停止します ([スタート/プログラム/IBM
WebSphere/サーバーの停止] メニュー) 。
- 21 WebSphere Application Serverを起動します ([スタート/プログラム/IBM
WebSphere/サーバーの始動] メニュー) 。

WSDLの呼び出しを使用するFlashの開発：制限



注意:

本節で説明する回避策はFlash 8で検証されています。

AssetCenter WSDLを呼び出すFlash 8アプリケーションを使用する場合、回避策を実装する必要があります。

以下の手順を実行します。

- 1 Internet Explorerを起動します。
- 2 AssetCenter Web Serviceページにアクセスします (http://<AssetCenter Web Serviceサーバ名>:<AssetCenter Web Serviceポート番号>/AssetCenterWebService) 。
- 3 Flashアプリケーションを実装するWebサービスの対象リビジョンを表示します。
例えば、R50です。
- 4 各ドメイン (例えば**管理**など) で、以下の手順を実行します。
 - a [スキーマ] リンクをクリックします。
表示されているドキュメントをローカルフォルダに保存します
(C:\FlashDev\schema\R50\Administration\Administration.wsdlなど) 。
 - b [wsdl] リンクをクリックします。

表示されているドキュメントをローカルフォルダに保存します
(C:\FlashDev\schem\R50\Administration\AdministrationTypes.xsd
など)。

- c .wsdlおよび.xsdの各ファイルを開きます。
「`schemaLocation=`」で始まる行を変更します
(`schemaLocation=../../schema/R50/Administration/AdministrationTypes.xsd`な
ど)。
相対パス`../../`を絶対パスに置換します。
例：

```
schemaLocation="file:///C:/FlashDev/schema/R50/Administration/Adm  
inistrationTypes.xsd"
```

- d FlashオブジェクトをローカルWSDLを使用して開発します。

AssetCenter WSDLのServiceCenterからの呼び出し：制限

AssetCenter WSDLには、ServiceCenterがサポートしない定義が含まれます。
これにより、ServiceCenterが呼び出すことを防ぎます。

実行可能ファイルアクション：新しいWebクライアントの動作

実行可能ファイルアクションの動作が、Webクライアントを通じてトリガされる
アクションについて、バージョン5.01で変更されました。

この動作は、アクションの詳細の【ファイル】(ActionFile) フィールドの値に
よって異なります。

以下の表は、状況に応じてWindowsクライアントとWebクライアントの取り得る
動作をまとめたものです。

アクションの詳細の【ファイル】（ActionFile）フィールドがhttpまたはhttpsに等しい場合

アクションがWindowsクライアントによってトリガされた場合	アクションがWebクライアントによってトリガされた場合
クライアントのWindowsワークステーションでデフォルトインターネットブラウザを起動し、【ファイル】フィールド（ActionFile）にあるURLアドレスに接続します	Webクライアントのワークスペースの【ファイル】（ActionFile）フィールドで指定されているURLアドレスに対応するページを表示します。

アクションの詳細の【ファイル】（ActionFile）フィールドがftpに等しい場合

アクションがWindowsクライアントによってトリガされた場合	アクションがWebクライアントによってトリガされた場合
クライアントのWindowsワークステーションでエクスプローラを起動し、【ファイル】（ActionFile）フィールドにあるFTPサイトに接続します。	Webクライアントのワークスペースの【ファイル】（ActionFile）フィールドで指定されているURLアドレスに対応するFTPサイトを表示します。

アクションの詳細の【ファイル】（ActionFile）フィールドがmailtoに等しい場合

WindowsクライアントやWebクライアントのワークステーション上のデフォルトメールアプリケーションを起動し、【ファイル】フィールド（ActionFile）のmailto:の後に指定されているパラメータを使用して、新規メッセージを作成します。

アクションの詳細の [ファイル] (ActionFile) フィールドがその他の値である場合

アクションがWindowsクライアントによってトリガされた場合	アクションがWebクライアントによってトリガされた場合
---------------------------------	-----------------------------

[ファイル] (ActionFile) フィールドで指定されているファイルの実行

デフォルトでは、AssetCenter Web ServiceステーションやWebクライアントではファイルは実行されず、エラーが戻されます。

AssetCenter Web Serviceステーションでファイルが実行されるようにするには、以下の手順を実行します。

- 1 データベースオプションを表示します (Windowsクライアントの [管理/データベースオプション...]) 。
- 2 [アクション/実行可能ファイルタイプのアクションの実行] (ExecuteAction) オプションを選択します。
- 3 このオプションを [サーバ] に設定します。

警告:

このタイプの操作には、リスクが伴います。

HTMLコンテンツのテーブルページへの挿入：新機能

バージョン5.01では、HTMLコンテンツをデータベーステーブルのページに挿入できます。

これは、*HtmlLabel*および*MultiLineHtmlLabel*クラスのフィールドによって可能になります。

これは、WindowsクライアントとWebクライアントの両方で実行可能です。

実行方法

*HtmlLabel*および*MultiLineHtmlLabel*クラスフィールドがテーブルのページのコンポーネントに追加されていますが、フィールドとリンクのテーブルのリストには追加されていません。

ページでこれらのクラスのフィールドが設定されるほか、以下のパラメータでフィールドが定義されます。

パラメータ パラメータの使用法

パラメータ	パラメータの使用法
Class	<ul style="list-style-type: none">■ <i>HtmlLabel</i> : 1行のHTMLオブジェクト■ <i>MultiLineHtmlLabel</i> : 複数行にまたがるHTMLオブジェクト
MainField	変更するとHTMLオブジェクトが更新されるフィールドやリンクのSQL名
ExtField	表示されるオブジェクトのHTMLコードを作成する特殊フィールドのSQL名

HTMLコードのレンダリングはそれを表示するクライアント (WindowsまたはWeb) に依存します。

- Windowsクライアント

- コードはWindowsクライアントによってレンダリングされます。
- 認識されるタグのリストは制限されています。
- **Webクライアント**
 - コードはインターネットブラウザによってレンダリングされます。
 - 認識されるタグのリストは、そのインターネットブラウザがサポートし、HTMLオブジェクトとしての使用が認められたHTMLタグに対応します。

フィールドの例

HtmlLabel クラスフィールドの一例を以下に挙げます。

テーブル	コンピュータ (amComputer)
ページ	ハードウェア (PgCpuGen)
Class	HtmlLabel
MainField	PhysicalAddress
ExtField	cf_sysCoreWebED

【ハードウェア】 ページ (PgCpuGen) が 【コンピュータ】 テーブル内に存在します。

このページには、【Enterprise Discovery】 特殊フィールド (sysCoreWebED) によって値が計算された、【HtmlLabel】 クラスのフィールドが含まれます。このフィールドは、【物理アドレス】 フィールド (PhysicalAddress) が変更されると、更新されます。

このフィールドは、以下のBASICスクリプトによって計算されます。

```
Dim strHtml as String
'strPhysAddr format is "AB-CD-EF-GH-IJ-KL"
Dim strPhysAddr as String
'strMAC format required by ED Web is "ABCDEFGHijkl"
Dim strMAC as String
' Backend for ED stored in amOption (Section: 'Backends', Entry: 'ED')
' API amBackEndServerPath is dedicated to reading: amOption, 'Backends' section
Dim strServerED as String

strPhysAddr = [PhysicalAddress]
strServerED = amBackEndServerPath("ED")
if strServerED="" OR Len(strPhysAddr)<17 then
strHtml = ""
else
strMAC = Mid(strPhysAddr,1,2) + Mid(strPhysAddr,4,2) + Mid(strPhysAddr,7,2) + Mid(strPhysAddr,10,2) + Mid(strPhysAddr,13,2) + Mid(strPhysAddr,16,2)
strHtml = "<a href="
```

```

strHtml = strHtml + amBackEndServerPath("ED")
strHtml = strHtml + "/nm/device/about.pcgi?device="
strHtml = strHtml + strMAC
strHtml = strHtml + ";device_type=MAC' target='_blank'>Display the detail i
n Enterprise Discovery</a>"
end if

RetVal = strHtml

```

このスクリプトが生成するHTMLコードの例を以下に挙げます。

```

<a href='https://MyEnterpriseDiscoveryServerHostName/nm/device/about.pcg
i?device=000D6016CF6C;device_type=MAC'>Enterprise Discoveryの詳細の
表示</a>

```

*HtmlLabel*および*MultiLineHtmlLabel*クラスのフィールドをページに追加するには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 特殊フィールドを表示します（ナビゲーションバーにある【管理／システム／特殊フィールド】リンク）
- 3 新規特殊フィールドを作成します。
以下の表にあるフィールドとリンクを入力します。

フィールドやリンクの名前	フィールドやリンクのSQL名	値
SQL名	SQLName	ユーザ定義のSQL名
<p>注意: この名前を覚えておいてください。後ほど使用します。</p>		
[シンタックス] タブ		
テーブル	TableName	<i>HtmlLabel</i> または <i>MultiLineHtmlLabel</i> クラスのフィールドを含むページが属するテーブル
フィールドタイプ	seType	BASICスクリプト
結果タイプ	seDataType	テキスト
特殊フィールドのスクリプト（このラベルは可視ではありません。リンクは、【BASICシンタックス】フレームにあります）	スクリプト	ページに挿入するHTMLコードを生成するスクリプト

- 4 AssetCenter Database Administratorを開始します。
- 5 変更対象ページを含むテーブルを選択します。
- 6 テーブルのページを表示します（【表示／ページ】メニュー）。

- 変更対象のページを選択します。

 **注意:**

システムページは変更できません（[システムオブジェクト] プロパティの値が[はい]であるページ）。

必要に応じてシステムページを複製します。

- [内容] タブを選択します。
- [内容] タブの左上にある編集領域で、変更されると、*HtmlLabel*または*MultiLineHtmlLabel*クラスのフィールドの更新をトリガするフィールドのSQL名を入力します。
- 編集領域の外側にカーソルを置きます。
新規オブジェクトが[フィールドのリスト]に表示されます。
- この新規オブジェクトをダブルクリックします。
- 以下のプロパティを入力します。

パラメータ パラメータの使用法

MainField クラス	変更すると、HTMLオブジェクトが更新されるフィールドやリンクのSQL名 ■ <i>HtmlLabel</i> : 1行のHTMLオブジェクト ■ <i>MultiLineHtmlLabel</i> : 複数行にまたがるHTMLオブジェクト
ExtField	表示されるオブジェクトのHTMLコードを生成する特殊フィールドのSQL名

注意:

この特殊フィールドは先ほどのステップで作成しています。

警告 : フィールドのSQL名は、*cf_*で始まります。

認識されるHTMLタグ

特殊フィールドを使用してHTMLコードを生成する際、HTMLタグを使用します。

以下のタグが、WindowsクライアントとWebクライアントの両方で認識されます。

タグ	使用法	属性
 	テキストを太字で表示	
 	テキストを太字で表示	
<I> </I>	テキストをイタリック 体で表示	
 	テキストをイタリック 体で表示	

タグ	使用法	属性	
<U> </U>	テキストに下線を添付		
 	改行を追加		
<P> </P>	段落を追加		
<HR>	横線の挿入		
 	番号なしのリストに使用		
 	リストの要素に使用		
<CENTER> </CENTER>	テキストを中心揃え		
<PRE>	テキストを事前フォーマット		
<SMALL> </SMALL>	文字サイズの縮小		
 	文字の表示に使用する フォントを定義	COLOR= SIZE=+ SIZE=- FACE=	文字の色 文字の拡大 文字の縮小 ユーザエージェントが使用する、優先順に並べられた カンマ区切りフォントのリスト
<ALIGN> </ALIGN>	テキストを位置揃え	CENTER	テキストを中心揃え
<A> 	アンカー	HREF=	Webリソースの位置を指定 します。現在の要素（ソース アンカー）とHREF属性 で定義されるターゲットア ンカー間のリンクを定義し ます。

適切に使用する必要がある他のHTMLタグと属性をHTMLオブジェクトに使用できません。

インターネットブラウザはそれらを正しくレンダリングできるでしょう。

しかし、Windowsクライアントは正しくレンダリングできないでしょう。

簡易シンタックス

http、*https*や*mailto*リンクタイプを、フィールドラベルに対応するフィールドとリンクのテキストに格納する場合、以下の簡略化された手順を使用できます。

データベースの設定

- 1 AssetCenter Database Administratorを開始します。
- 2 ハイパーテキストリンクを表示するページを含むテーブルを選択します。
- 3 テーブルのページを表示します（[表示/ページ]メニュー）。
- 4 変更対象のページを選択します。



注意:

システムページは変更できません（[システムオブジェクト] プロパティの値が[はい]であるページ）。

必要に応じて1つ複製します。

- 5 [内容] タブを選択します。
- 6 [内容] タブの左上にある編集領域で、URLアドレスの格納に使用するフィールドのSQL名を入力します。
- 7 編集領域の外側にカーソルを置きます。
新規オブジェクトが[フィールドのリスト]に表示されます。
- 8 この新規オブジェクトをダブルクリックします。
- 9 以下のプロパティを入力します。

パラメータ パラメータの使用法

MainField	URLアドレスの格納に使用するフィールドのSQL名
クラス	HtmlLabel

- 10 データベース構造を保存します（[ファイル/データベース構造の保存]）

データベースの入力

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 レコードの詳細を表示します。
- 3 リファレンスフィールドを入力します。
- 4 情報を保存します。

URLアドレスの使用

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 レコードの詳細を表示します。
- 3 *HtmlLabel*クラスのフィールドを含むタブを表示します。

*HtmlLabel*クラスフィールドには、ハイパーテキストリンクとしてリファレンスフィールドのラベルが表示されます。

そのリンクをクリックすると以下のようになります。

- Windowsクライアント：デフォルトのインターネットブラウザが起動し、リンクに関連付けられたURLアドレスに対応するページが表示されます。
- Webクライアント：リンクに関連付けられたURLアドレスに対応するページをWebクライアント自身が表示します。

AssetCenterおよびEnterprise Discoveryの統合：新規コンポーネント

コンピュータの詳細で、コンピュータのURLアドレスをクリックしてEnterprise Discoveryデータベースにあるコンピュータの詳細を表示できます。

事前の作業

Enterprise DiscoveryデータベースをInternet Explorerからアクセス可能にする

Enterprise Discoveryデータベースのコンピュータの詳細を表示するユーザは、Internet Explorerを通じてEnterprise Discoveryデータベースにアクセスできる必要があります。

ポートフォリオ - 専門分野データのデータベースへのインポート

[ポートフォリオ - 専門分野データ] をインポートして、統合が正しく機能するようにする必要があります。

データベース作成時の専門分野データのインポート

『管理』マニュアルの「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除／AssetCenter Database Administratorを使ってデータベース構造を作成する」の章にある指示に従います。

[インポートするデータ] ページで、[ポートフォリオ - 専門分野データ] オプションを選択します。

専門分野データの既存データベースへのインポート

以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter Database Administratorを実行します。
- 2 [ファイル／開く] メニュー項目を選択します。
- 3 [データベース記述ファイルを開く(新規データベースの作成)] オプションを選択します。
- 4 AssetCenterインストールフォルダのconfigサブフォルダにある、gbbase.xml ファイルを選択します。
- 5 データベース作成ウィザードを開始します（[アクション／データベースの作成] メニュー）。
- 6 次のようにウィザードのページに入力します（ウィザードページを[次へ] と[戻る] で移動します）。

[SQLスクリプトの生成/データベースの作成] ページ：

フィールド	値
データベース	専門分野データのインポート先とするデータベースへの接続を選択します。
作成	専門分野データをインポートします。

フィールド	値
高度な作成オプションを使用	このオプションは選択しないでください

[作成パラメータ] ページ :

フィールド	値
パスワード	管理者のパスワードを入力します。

注意:

AssetCenterデータベース管理者は、その [名前] フィールド (Name) が *Admin* にセットされている [部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのレコードです。

データベース接続ログインが [ユーザ名] フィールド (UserLogin) に保存されています。管理者のユーザ名は「*Admin*」です。

パスワードが [パスワード] フィールド (LoginPassword) に保存されています。

[インポートするデータ] ページ :

フィールド	値
使用可能データ	[ポートフォリオ - 専門分野データ] オプションを選択します。
エラー発生時にインポートを中止	このオプションは、問題が発生したときにインポートを中止する場合に選択します。
ログファイル	エラーと警告を含む全インポート操作をログ記録するファイルの完全名。

7 ウィザードで定義されたオプションを実行します ([終了]) 。

Enterprise Discovery WebクライアントのURLアドレスの宣言

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) を開始します (ナビゲーションバーにある [管理/アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] リンク) 。
- 3 以下の要領でウィザードに入力します。

フィールド	値
[アプリケーションサーバのプロパティの追加/変更] ページ	
追加するアプリケーションサーバの名前	ページの下部に、 [アプリケーション] 列が [ED] である行が存在しない場合、このフィールドに「ED」と入力してから、 [アプリケーションサーバの追加] をクリックします。
アプリケーションのリスト、 [アプリケーション] 列が [ED] である行、 [サーバのURLアドレス] 列	httpまたはhttps://<Enterprise Discoveryサーバ名>:<Enterprise Discovery使用のポート番号>

フィールド	値
[変更のサマリ] ページ	ページの内容を確認します。
[完了] をクリックします。	
Windowsクライアント： [OK] をクリックします。	

- Windowsクライアント：データベースに再接続します（[ファイル/データベースに接続] メニュー）。

AssetCenterデータベースでのコンピュータの作成

- AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- コンピュータを表示します（[ポートフォリオ管理/IT/コンピュータ/コンピュータ] リンク）。
- コンピュータの詳細、特に以下のフィールドやリンクに入力します。

フィールドやリンクの名前	フィールドやリンクのSQL名	値
[ネットワーク] タブ		
物理アドレス	PhysicalAddress	Enterprise Discoveryデータベースでのコンピュータ識別子です。 この識別子のフォーマットは、 <i>AB-CD-EF-GH-IJ-KL</i> です。 Enterprise Discoveryデータベースでコンピュータを検索するには、この識別子を与える必要があります。

AssetCenterからのEnterprise Discoveryデータベースにあるコンピュータの表示

- AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- コンピュータを表示します（ナビゲーションバーにある[ポートフォリオ管理/IT/コンピュータ/コンピュータ] リンク）。
- 表示するコンピュータをEnterprise Discoveryデータベースから選択します。
- [ハードウェア] タブを表示します。
- [*Enterprise Discoveryの詳細の表示*] リンクをクリックします。

Windowsクライアント：デフォルトのインターネットブラウザが起動し、[*Enterprise Discoveryの詳細の表示*] リンクに関連付けられたURLアドレスに対応するページを表示します。

Webクライアント：Webクライアント自身が[*Enterprise Discoveryの詳細の表示*] リンクに関連付けられたURLアドレスに対応するページが表示されます。

動作の仕組み

AssetCenterは [Enterprise Discovery] (sysCoreWebED) 特殊フィールドを使用して、ラベルがEnterprise Discoveryの詳細の表示であるHREF属性を持つHTML <A>アンカーを生成します。このアンカーは、連結によって生成されたURLをポイントしています。

- テキスト文字列
- [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) で定義されるEnterprise DiscoveryのURLアドレス
- コンピュータの [物理アドレス] フィールド

[Enterprise Discoveryの詳細の表示] リンクをクリックすると、AssetCenterはURLアドレスを処理します。

AssetCenterとServiceCenterとの統合：新規コンポーネント

コンピュータの詳細から、ユーザは、ServiceCenterデータベースにあるコンピュータ向けに宣言された、インシデント、変更および問題のリストを表示できます。

事前の作業

ServiceCenterデータベースをInternet Explorerからアクセス可能にする

ServiceCenterデータベースにあるコンピュータの詳細を表示したいユーザは、ServiceCenterデータベースをInternet Explorerからアクセス可能にする必要があります。

ポートフォリオ - 専門分野データのデータベースへのインポート

[ポートフォリオ - 専門分野データ] をインポートして、統合が正しく機能するようになる必要があります。

- ▶ ポートフォリオ - 専門分野データのデータベースへのインポート [献 57]

ServiceCenter WebクライアントのURLアドレスの宣言

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) を開始します (ナビゲーションバーにある [管理/アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] リンク)。
- 3 以下の要領でウィザードに入力します。

フィールド	値
[アプリケーションサーバのプロパティの追加/変更]	ページ

フィールド	値
追加するアプリケーションサーバの名前	ページの下部に、[アプリケーション] 列が [ServiceCenter] である行が存在しない場合、このフィールドに「ServiceCenter」と入力してから、[アプリケーションサーバの追加] をクリックします。
アプリケーションのリスト、[アプリケーション] 列が [ServiceCenter] である行、[サーバのURLアドレス] 列	httpまたはhttps://<ServiceCenterサーバ名>:<ServiceCenter使用のポート番号>
[変更のサマリ] ページ	ページの内容を確認します。
[完了] をクリックします。	
Windowsクライアント： [OK] をクリックします。	

- 4 Windowsクライアント：データベースに再接続します（[ファイル/データベースに接続] メニュー）。

AssetCenterおよびServiceCenterデータベースでのコンピュータの作成

AssetCenterデータベースで選択したコンピュータがServiceCenterデータベースに存在するようにするには、両データベースで以下のフィールドに対して同じ情報を使用する必要があります。

	テーブル	フィールド
AssetCenter	コンピュータ (amComputer)	名前 (Name)
ServiceCenter	computer	logical.name

AssetCenterデータベースとServiceCenterデータベース間での照合更新を自動化するには、Connect-It統合シナリオを、AssetCenterとServiceCenter間で、または、インベントリツールとAssetCenter間、および同一インベントリツールとServiceCenter間で使用できます。

AssetCenterのWindowsのクライアントからServiceCenterデータベースにあるコンピュータのインシデント、変更、問題を見る

- 1 Windowsクライアントを開始します。
- 2 コンピュータを表示します（ナビゲーションバーにある[ポートフォリオ管理/IT/コンピュータ/コンピュータ] リンク）。
- 3 コンピュータの詳細を表示します。
- 4 以下のタスクのいずれか1つを実行します。

目的	実行するアクション
ServiceCenterのインシデントの表示	以下のタスクのいずれか1つを実行します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ [ServiceCenter] をクリックします。 ■ [ServiceCenterのインシデントの表示] を状況依存アクションから選択します（[アクション] ショートカットメニュー）。

目的	実行するアクション
ServiceCenterの変更の表示	[ServiceCenterの変更の表示] を状況依存アクションから選択します（ [アクション] ショートカットメニュー）。
ServiceCenterの問題の表示	[ServiceCenterの問題の表示] を状況依存アクションから選択します（ [アクション] ショートカットメニュー）。

ServiceCenterデータベースにあるコンピュータのインシデント、変更、問題のAssetCenter Webクライアントでの表示

- 1 Webクライアントを開始します。
- 2 コンピュータのリストを表示します（ナビゲーションバーにある **[ポートフォリオ管理/IT/コンピュータ/コンピュータ]** リンク）。
- 3 コンピュータをリストから選択します（左側にある列のチェックボックス）。
- 4 以下のタスクのいずれか1つを実行します。

目的	以下の値を [状況依存アクション] リストから選択します。
ServiceCenterのインシデントの表示	ServiceCenterのインシデントの表示
ServiceCenterの変更の表示	ServiceCenterの変更の表示
ServiceCenterの問題の表示	ServiceCenterの問題の表示

動作の仕組み

URLアドレスを生成するのに、AssetCenterは以下の特殊フィールドを使用します（ナビゲーションバーにある **[管理/システム/特殊フィールド]** リンク）。

- ServiceCenterでの変更（sysCoreWebSCChanges）
- ServiceCenterでの問題（sysCoreWebSCProblems）
- ServiceCenterでのインシデント（sysCoreWebSCTickets）

ServiceCenter Webクライアントの適切なページを開くのに、AssetCenterは以下のアクションを使用します（ナビゲーションバーにある **[管理/アクション]** リンク）。

- ServiceCenterの変更の表示（BstSCChanges）
- ServiceCenterの問題の表示（BstSCProblems）
- ServiceCenterのインシデントの表示（BstSCTickets）
- ServiceCenterのインシデントの表示（BstServiceCenterTickets）

これらのアクションは、特殊フィールドを使用して表示するServiceCenterページのURLを取得します。

状況依存リンク：変更点

ヒント:

注意：状況依存リンクとは、データベース構造で定義されていないターゲットテーブルを持つソーステーブルからのリンクです。

ターゲットテーブルとターゲットレコードは、ソーステーブルの2つのフィールドで定義されます。

クエリ、ワークフローチャート、BASICスクリプト、特殊フィールドなどで状況依存リンクを参照する際、ショートカットを使用できます。

AssetCenterの今後のバージョンでは、クエリ、ワークフローチャート、BASICスクリプト、特殊フィールドなどで状況依存リンクを参照する際にショートカットを使用できなくなります。

他の手段（クエリ、特殊フィールド、BASICスクリプトなど）を使用して、（ターゲットテーブルとリモートレコードの主キーを指定することで）状況依存リンクのターゲットレコードにアクセスすることを推奨します。

状況依存リンクを参照するのにショートカットを使用しているクエリ、ワークフローチャート、BASICスクリプト、特殊フィールドなどの変更は既に開始しても構いません。

例えば、**[ドキュメント]**（amDocument）テーブルには**[テーブル]**フィールド（DocObjTable）と**[参照オブジェクトリンクID]**外部キー（IDocObjId）に基づいた状況依存リンクがあります。

ショートカットを使用するクエリは、以下のように書かれていました。

```
SELECT XXX FROM amDocument WHERE AssetDocObject = 52326
```

この代わりに、以下のようにSQLを書き直すことを推奨します。

```
SELECT XXX FROM amDocument WHERE IDocObjId = 52326 AND DocObjTable = 'amAsset'
```

Crystal Reports：Webクライアントでも利用可能になりました

Crystal Reportsは、従来のAssetCenter Webクライアントでは表示できませんでした。

バージョン5.01からは可能になりました。

制限

状況依存レポートは、Webクライアントのバージョン5.01ではサポートされません。

実行方法

- レポートは今までどおりCrystal Reportsで作成します (.rptファイル)。
- レポートはCrystal Reports Serverのデータベースに格納されます。そうすることで、任意のAssetCenter WebクライアントやWindowsクライアントから利用可能になります。
- Crystal ReportsはAssetCenterデータベース内でも記述されます。そこでは、Crystal Reports ServerのデータベースでのレポートのIDを参照します。
- ユーザが、AssetCenter WebクライアントやWindowsクライアントからCrystal Reportsレポートを要求すると（表示や印刷）、クエリがCrystal Reports Serverに送信されます。

Crystal Reports ServerはAssetCenterデータベースからのデータを取得し、WebクライアントやInternet Explorer（Windowsクライアントの場合）にレポートを表示します。

前提条件

選択したDBMSを使用してAssetCenterデータベースを作成している必要があります。

このデータベースは有効なユーザライセンスがあり、Crystal Reports Serverからアクセス可能である必要があります。

▶ AssetCenter 『管理』 マニュアル、「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」の章。

実装

同一サーバ上に実装します。

この節では、展開するコンポーネントについて説明します。

インストールに必要なコンポーネント

同一サーバ上に、以下のコンポーネントをインストールします。

- Crystal Reports Server
 - ▶ Crystal Reports Serverマニュアル



注意:

Crystal Reports Serverに特別な設定は必要ありません。
設定は、各レポートに対してなされます。

- 以下のAssetCenterモジュール
 - AssetCenterクライアント
 - Crystal Reportsライブラリ
 - AssetCenter ODBCドライバ
 - ▶ AssetCenter 『インストールとアップグレード』 マニュアル guide

- AssetCenterデータベースで使用されるDBMSのクライアントレイヤ
 - ▶ AssetCenter 『管理』 マニュアル、「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」、「DBMSを使って空のシェルを作成する」の節。

AssetCenterデータベースへの接続の作成

- 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。
- 2 AssetCenterデータベースへの接続を作成します（[ファイル/接続の管理]メニュー）。
 - ▶ AssetCenter 『管理』 マニュアル、「AssetCenterデータベースの作成、変更、削除」、「AssetCenterへの接続を作成する」の節。
接続名を覚えておいてください。後で必要になります。
- 3 接続をテストします（[接続の管理] ウィンドウの[テスト] ボタン）。

ポートフォリオ - 専門分野データのデータベースへのインポート

[ポートフォリオ - 専門分野データ] をインポートして、統合が正しく機能するようにする必要があります。

- ▶ ポートフォリオ - 専門分野データのデータベースへのインポート [献 57]

Crystal Reports Serverの宣言

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) を開始します (ナビゲーションバーにある[管理/アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] リンク)。
- 4 以下の要領でウィザードに入力します。

フィールド	値
[アプリケーションサーバのプロパティの追加/変更] ページ	
追加するアプリケーションサーバの名前	ページの下部に、[アプリケーション] 列が [Crystal] である行が存在しない場合、このフィールドに「Crystal」と入力してから、[アプリケーションサーバの追加] をクリックします。
アプリケーションのリスト、[アプリケーション] 列が [Crystal] である行、[サーバのURLアドレス] 列	httpまたはhttps://<Crystal Reports Serverサーバ名>:<Crystal Reports Server使用のポート番号> 例： http://BusinessObjectServer:8080
[変更のサマリ] ページ	ページの内容を確認します。
[完了] をクリックします。	

フィールド	値
Windowsクライアント:	[OK] をクリックします。

- Windowsクライアント: データベースに再接続します ([ファイル/データベースに接続] メニュー) 。

u2lamlib.dllファイル

- エクスプローラを起動します。
- C:\Program Files\Business Objects\Common\3.5\binフォルダの内容を表示します (このフォルダはAssetCenterインストール時に作成されています) 。
- u2lamlib.dllファイルをコピーします。
- このファイルを、<Crystal Reports Serverのインストールフォルダへの完全パス>\Common\3.5\binフォルダに貼り付けます。

Crystal Reportsを利用可能にするには

ユーザに利用可能にしたい各レポートについて、以下の手順を実行します。

- Crystal Reports Serverのセントラル管理コンソールモジュールを起動します。
- レポートをインポートします。
- レポートを開きます ([オブジェクト] メニュー) 。
- 以下のプロパティに着目します。
 - 名前
 - ファイル
例:

```
frs://Input/a_117/002/000/629/1f048f4996817a4.rpt
```

この例では、値629を記録しておきます。

これが、AssetCenterデータベースに格納する必要があるレポートの識別子です。

ヒント:

レポートの識別子を取得するのに、Crystal Reports Serverのクエリビルダで以下のようなクエリを実行することもできます。

```
SELECT SI_NAME, SI_ID FROM CI_INFOOBJECTS WHERE SI_PROGID = 'CrystalEnterprise.Report'
```

- [プロセス] タブ、 [データベース] サブタブに入力します。

プロパティ名	値
サーバ	AssetCenter Database

プロパティ名	値
データベース	AssetCenter接続の名前
ユーザ	このプロパティは空欄にしておきます
パスワード	このプロパティは空欄にしておきます

- 6 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 7 データベースに接続します。
- 8 レポートを表示します (ナビゲーションバーにある [管理/レポート機能/レポート] リンク)。
- 9 以下のフィールドに入力して、レポートを作成します。

フィールドやリンクの名前	フィールドやリンクのSQL名	コメント
ラベル	タイトル	Crystal Reports Serverデータベースでのレポート名 注意: このフィールドは必須ではありませんが、使用すると便利であることがあります。
ファイル	FileName	Crystal Reports Serverでのレポートの識別子

レポートの表示

利用可能なレポート

Windowsクライアント：AssetCenterデータベースやCrystal Reports Serverから、すべてのレポートが利用可能です。

Webクライアント：Crystal Reports Serverを通じてアクセスできるレポートのみが利用可能です。

注意:

Crystal Reports Serverが、[アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BsfBackEndOpt) を通じて宣言され、レポートの [ファイル] フィールド (database) に数値が含まれている場合のみ、WebクライアントとWindowsクライアントがCrystal Reports Serverを通じたレポートが利用可能であると認識します。

レポートを表示するには、以下の手順を実行します。

- 1 AssetCenter WindowsクライアントまたはWebクライアントを起動します。
- 2 データベースに接続します。
- 3 ナビゲータでレポートを選択します。

ヒント:

[プレビュー] ボタンをクリックしたり (Windowsクライアント)、レポートの詳細の [アクション...] リストにある [プレビュー] を選択することもできます。

レポートの表示方法

Windowsクライアント:

- .rptファイルがAssetCenterデータベースに格納されている場合、レポートはWindowsクライアントが表示します。
- .rptファイルがAssetCenterデータベースではなく、Crystal Reportsサーバに格納されている場合、レポートはインターネットブラウザが表示します。

Webクライアント: レポートはWebクライアントが表示します。

Crystal Reportsのソース

Crystal Reportsには、以下に挙げるソースがあります。

- Crystal Reportsを使用して自分で作成したレポート
- AssetCenterデータベースに格納されていたレポート
[エクスポート] (Windowsクライアント) をクリックするか、レポートの詳細にある [アクション...] の [エクスポート] を選択して、1つずつエクスポートする必要があります。
- AssetCenter専門分野データレポート
これらのレポートは、AssetCenterインストールフォルダのdatakitサブフォルダにあります。

必要なレポートをCrystal Reports Serverデータベースにインポートする必要があります。

AssetCenterによるレポートのURLアドレスの生成方法

AssetCenterは [レポートの表示] 特殊フィールド (sysCoreWebCrystal) を使用して、*HREF*属性を持つHTML<A>アンカーを生成します。このアンカーは、連結によって生成されたURLをポイントしています。

- テキスト文字列
- [アプリケーションサーバのURLアドレスの編集...] ウィザード (BstBackEndOpt) によって定義されるCrystal Reports ServerのURLアドレス
- レポートの [ファイル] フィールド (FileName)

レポートの名前が付いたリンクをクリックすると、AssetCenterがURLアドレスを処理します。

ソフトウェア配布ツールとの統合：新機能

AssetCenterのOpenView Configuration Manager Solutionとの統合が標準になりました（LANDesk Management Suiteの他）

この統合により、実現可能な作業を以下に挙げます。

- 1 AssetCenterを使用して、スケジュールされたタスクを作成します。

注意:

スケジュールされたタスクを使用して、ソフトウェアパッケージの配布や、対象コンピュータのセット上でのスクリプトの実行を行います。

- 2 OpenView Configuration Manager Solutionを使用して、AssetCenterで定義されたスケジュールされたタスクを実行します。

この統合の実装方法については、OpenView Configuration Manager Solution統合ソリューション付属の▶『ソフトウェア配布ツールとの統合』マニュアルの「OpenView Configuration Manager Solutionとの統合」の章を参照してください。

AssetCenter Webサービス

AssetCenter Webサービスとは

AssetCenterはWebサービスを発行できます。

このため、AssetCenterはSOAPプロトコルを使用します。

発行されたWebサービスにより、AssetCenter Serverと容易に通信できます。

これにより、読取りアクション (*retrieveAllPurchaseRequest*など) および書き込みアクション (*savePurchaseRequest*など) を実行できます。

Microsoft Studio 2003 ASP.Net、Java + Antや、Webサービスと対話機能があるその他の任意のツールなどの開発環境でこのようなアクションを実行できます。

注意:

AssetCenterは、サードパーティWebサービスのコンシューム（呼び出し）は行えません。

ConnectItを使用して、サードパーティWebサービスを呼び出すことができます。

AssetCenter Web ServiceがパブリッシュしたWebサービスは、機能ドメインに応じてグループ化されます（**[WEBサービス]**（*seWebService*）フィールドが**[自律]**である機能ドメインのみが保持されます）。これらの機能ドメインには、**[seWebService]**フィールドが**[親ドメインから]**である機能サブドメインが含まれます。

WebサービスはAssetCenterデータベースからオブジェクト（画面、アクションなど）を発行します。

発行されたWebサービスには、多数のAPIを含めることができます。

指定されたWebサービスの定義にアクセスするには、以下のようなURLを入力します。

```
http://<AssetCenter Web Serviceサーバ名>:<AssetCenter Web Serviceポート番号>/AssetCenterWebService/services/Head/<Webサービス名>?WSDL
```

<Webサービスの名前>は、**[WEBサービス]**（seWebService）フィールドが**[自律]**である機能ドメインのSQL名に対応します。

Webサービスの使用に関する詳細については、▶「Webサービスの呼び出しに使用するサンプルコード：新機能 [献 72]」を参照してください。

Webサービスの定義の確認

- 1 AssetCenter Database Administratorを開始します。
- 2 Webサービスをタグ付けします（**[アクション/Webサービスをタグ付け]**メニュー）
[識別子]：日付、シーケンシャル番号、プロジェクト識別子などです。

注意:

Webサービスのタグ付け時、データベースの現在の状態のスナップショットが取られます。

このイメージはデータベースに格納されます。

Webサービスの定義は、AssetCenter Web Serviceによって自動的に発行されます。

次のようなURLを入力することでアクセスできます。

```
http://<AssetCenter Web Serviceサーバ名>:<AssetCenter Web Serviceポート番号>/AssetCenterWebService
```

このURLは、WebサービスのWSDLへのリンクを含むHTMLページを表示します。

WSDLは、タグ付け時に生成された識別子によってグループ化されています。

既に使用されている識別子でWebサービスを再タグ付けすると、格納されているWebサービスの定義が更新されます。開発環境で使用されているWebサービスのコードを再コンパイルすると、以前のタグ付けバージョンとの非互換性を意味するエラーが表示されます。

APIの命名規則

重要項目:

Webサービスが公開するAPIは、レコードではなくドキュメントでまとめられます。

*PurchaseRequest*ドキュメントには、関連する依頼明細のすべてが含まれていません。

以下に挙げるのは、Webサービスが公開するAPIの命名規則のリストです。

- *retrieveAllXxxListByYyy*
YyyでフィルタしたXxxタイプのドキュメントのリストを取得します。
Xxxは画面のSQL名から生成されます。
Yyyの生成元を以下に挙げます。
 - インデックスを作るフィールドとリンクのSQL名 (*AssetAnddCntrIncluded* など)
 - クエリのSQL名
 - クエリウィザードの画面セット (QBEフィールド)*retrieveAllPurchaseRequestListByUser*など
- *retrieveFirstXxxListByYyy*
Yyyでフィルタした、最初のn個のXxxタイプのドキュメントのリストを取得します (nはAPIのパラメータです)。
- *retrieveNextXxxList*
ドキュメントをパラメータとして渡した後に、n個のXxxタイプドキュメントのリストを取得します。
- *retrievePreviousXxxList*
ドキュメントをパラメータとして渡す前に、n個のXxxタイプのドキュメントのリストを取得します。
- *retrieveLastXxxListByYyy*
Yyyでフィルタした、最後のn個のXxxタイプのドキュメントのリストを取得します (nはパラメータとして渡されます)。
- *retrieveXxxByYyy*
Yyyでフィルタした、1個のXxxタイプのドキュメントを取得します。
- *retrieveXxx*
パラメータとして渡されたAPIリファレンスから、1個のXxxタイプのドキュメントを取得します。
- *saveXxx*
1個のXxxタイプドキュメントを保存します。
- *deleteXxx*
1個のXxxタイプのドキュメントを削除します。

- *countXxx*
パラメータとして渡されたリストに対応するXxxタイプのドキュメントの個数を数えます。この値は、メモリに読込まれるリストのサイズの制限を受けません。
- *retrieveXxxBreakdown*
パラメータとして渡されたリストに対応するXxxタイプのドキュメントの明細を生成します。この値は、メモリに読込まれるリストのサイズの制限を受けません。
- *executeZzz*
Zzzアクションを実行します。

Webサービスの呼び出しに使用するサンプルコード：新機能

バージョン5.01には、AssetCenter Webサービスを呼び出すコードを持つサンプルプロジェクトが含まれます。

これらのプロジェクトは、AssetCenterインストールフォルダのsamples\wsフォルダにあります。

これらのプロジェクトは、以下の環境で設計されています。

Microsoft Studio 2003 ASP.Net

- *RequestSample*
C# ASP.Netプロジェクトを使用して購入依頼のリストの表示と依頼の作成をしています。
- *ChartingSample*
VB.Net WindowsFormsプロジェクトを使用して、コストカテゴリの経費明細の詳細を表示するグラフを表示しています。

注意:

このコードは、以下のサイトからダウンロードできるDotNetChartingコンポーネントをインストールする必要があります。

<http://www.dotnetcharting.com/download.aspx>

- *ACPhoneListSample*
このC# WindowsFormsプロジェクトを使用して、ページ機能を使用したAssetCenterデータベースディレクトリを表示しています（レコードはすべてが一括して戻されるのではなく、グループ化して戻されます）。

Java + Ant

- *RSS*

このプロジェクトを使用して、RSSフィード（Really Simple Syndication）を通じて接続ユーザに割り当てられたニュースとワークフロータスクを表示します。

 **注意:**

RSSフォーマットとは、Webサイト（記事、情報、イベント）のコンテンツ、および定期的に更新されるコンテンツを提供する任意のページを記述する手段の1つです。

これにより、Webサイトは他のサイトで公開された最新情報を自動的に表示します。

RSSフォーマットはWebサイト間でコンテンツを共有するのに使用されます。RSSコンテンツは、特殊なRSSフィードリーダーであるアグリゲータによって読み取ることができます。

- *CoreServiceSample*

このプロジェクトを使用して、デモデータベースからDOSコンソールで従業員と部署のリストを表示しています。

履歴 - バージョン5.00

Webクライアント：クライアントのデザインを一新

AssetCenterのWebクライアントのデザインが一新され、多層アーキテクチャ（4層）をベースとするデザインに変わりました。

Webクライアントは、AssetCenterの新しいWebサービスを経由してAssetCenterのデータ、プロセス、ワークフローチャートにアクセスします。

これまでのOAAテクノロジーベースのWebクライアントに代わって新しいWebクライアントが用いられます。

前のWebクライアントも、これまで通りAssetCenter 5.0で使用することができます。

▶マニュアル『インストールとアップグレード』の「AssetCenter Webのインストールと設定」の章を参照してください。

マニュアル▶『はじめに』

Webサービス：新規コンポーネント

AssetCenterのWebサービスでは、どのサードパーティのアプリケーションであっても、Webサービスとの相互作用が可能であれば、ユーザフレンドリーな標準

ベースのインタフェースからAssetCenterの全部のデータ、プロセス、ワークフローチャートにアクセスできるようにしています。

AssetCenterのWebサービスは、J2EE規格をベースとしており、標準WSDL記述とSOAPベースの通信によってアクセスできます。

AssetCenterのWebサービスにより、AssetCenterのAPIが多層アーキテクチャ経由で使用可能になります。

ソフトウェア配布ツールとの統合：新機能

AssetCenterでは、AssetCenterデータベースからの参照情報（人口統計、棚卸、ファイナンス、契約データ）を使用して、ターゲットコンピュータでソフトウェア配布タスク（スケジュールされたタスクまたは即時タスク）を定義することができます。

これらのタスクを実行するには、AssetCenterと一緒にいずれかのソフトウェア配布またはソフトウェアパッチ管理アプリケーションを使用します。

ソフトウェアの一覧を表示するには、

www.hp.com/managementsoftware/peregrine_supportで互換対応表を参照してください。

AssetCenterデータベースやConnect-Itシナリオのカスタマイズに従って、他のソフトウェア配布管理アプリケーションやソフトウェアパッチ管理アプリケーションを使用することが可能です。

マニュアル▶ 『ソフトウェア配布ツールとの統合』

ソフトウェア資産モジュール：改良点

ソフトウェア資産管理の改善により、完全なソフトウェアコンプライアンス（インストール数対取得したライセンス数）を、使いやすいインタフェースで監視できるようになりました。

作成ウィザードの操作性と機能がさらに向上し、すべてのインストールとライセンスが確実にカウントされるようになりました。

複数の新しいウィザードを使って既存のカウンタを簡単に変更できます。

ユーザがエグゼクティブビューでコンプライアンスをモニタできます。

ワークフローチャートが、カウンタとの連動を確認するためインストールまたはライセンスがいつ追加されたかをモニタします。

以下に、追加と改善に関する詳細を示します。

- ナビゲーションバーの【ポートフォリオ管理/IT/ライセンス/ソフトウェアの管理】リンクによって起動されるウィザード：
 - カウンタの作成を管理していたウィザードの一部のデザインを見直しました。

- このウィザードは、ウィザードを起動したユーザの機能権限を考慮しません。
- ソフトウェアカウンタ：
 - 同じカウンタ内で資格と権限を管理できるようになりました。
 - カウンタ作成が単純化され、自動化され、信頼性が上がりました。
 - **【ソフトウェアライセンス管理カウンタの作成...】** ウィザード
 (sysSamCreateSoftwareCounter) を使用すると、あらゆるタイプのソフトウェアカウンタを作成して、ソフトウェアコンプライアンス（インストール内容対保有ライセンス数、またはインストール内容対必要ライセンス数）を監視できます。これにより、ソフトウェアインストールの全体的な制御を保持する手段が得られます。
 このウィザードによってライセンスとインストールが1個のカウンタにだけ含まれることになるので、権限/資格とインストール/使用が一度だけカウントされます。
 このウィザードをうまく利用することで、所定タイプのすべてのライセンスモデルとインストールモデルが1個のカウンタに正しく関連付けられていることを簡単に確認することもできます。
 これらのカウンタには以下の新規フィールドがあります。
 - **【会社ソフトウェア管理の一部】** (bFamily)
 - **【コンプライアンスには含めない】** (SQL名: bInternal)
 - **【ウィザードを使用してカウンタを編集】** (bAutomated)
 ウィザードを使用しないで、ライセンスとインストールの固有性を無視したより高度なカウンタを作成することもできます。
 - 更新が単純化されました。
 既存カウンタの変更に、以下の複数のウィザードが使用できます。
 - **カウンタの適用範囲の定義または再定義...**
 (sysSamAddScope2Counter)
 - **考慮に入れるインストールモデルのリストの変更...**
 (sysSamAddInst2Counter)
 - **考慮に入れるライセンスモデルのリストの変更...**
 (sysSamAddLic2Counter)
 カウンタの変更ウィザードでは、カウンタに関連付けられていないライセンスモデルとインストールモデルだけを追加できます。
 これにより、ライセンスモデルとインストールモデルが一度に1個のカウンタにだけ関連付けられることとなります。
 - さまざまな状況に対応するため、カウンタのテンプレートの数を増加しました。
 これらのモデルを使用すると、カウントをグループ分けする方法が多様化します（場所別、部署別など）。

- 概要を追加しました（ナビゲーションバーにある「ポートフォリオ管理／ソフトウェアカウンタの結果」リンク）。

このビューは、カウンタごとに1行で表示されます。

各カウンタに対して、このビューに権限、資格、インストール/使用、未使用インストールの数が1行で表示されます。

- **自動カウンタ用にライセンスとインストールを管理**
(sysSamWFAutoCounter) ワークフローチャートが追加されました。
このワークフローチャートは、新しいライセンスモデルまたはインストールモデルを作成したときにカウンタを更新するためのタスクを作成します。

▶ 『ソフトウェア資産』

画面セット：すべてのテーブルに一般化

所定テーブルのレコードを表示する際に、複数のバージョンの画面を作成することができます。

これには、各テーブルに対して作成された**画面セット**を使用します。

ユーザは、より複雑なFull画面の代わりに、ニーズに合わせてカスタマイズされた画面を表示することが可能になります。

AssetCenterではデータベースのほとんどのテーブルに対してデフォルトでFull画面とSimple画面が付属しています。

マニュアル▶ 『カスタマイズ』の「データベースのカスタマイズ」の章の「画面セット」

UNSPSC分類コード：改良点

UNSPSC分類コードは、AssetCenterによって供給され、データベースにインポートすることができます。

この分類コードは、ポートフォリオ品目の説明の標準化や、購入管理に用いる外部カタログへのリンクに使用できます。

モデルは、UNSPSC分類コードの最初の2レベルに対して作成されています。

モデルは分類コードの多数のサブレベルに対して作成されており、モデルには**コンポーネント、IT/通信サプライ品、機器**が含まれています。

ウィザードを使用すると、分類コードから簡単にテンプレートを作成できます。

プロジェクト：改良点

あるプロジェクトに対して発生した経費をプロジェクトとリンクさせ、詳細画面で表示できるようになりました。

作業指示から作成された経費は、自動的にそのプロジェクトに関連付けられます。

資産から作成した経費を、経費付替えを使ってプロジェクトに関連付けることができます。

業務サービス：新機能

AssetCenterでは、すでに以下のユーザ定義が行えます。

- 設定アイテム（ポートフォリオ品目、従業員、部署、場所）間の関係
- これらの設定アイテムと契約またはファイナンス項目間の関係、および社内規則
- 親-従属関係
- 物理的関係（ポート、接続）

業務サービスで、サービスを提供するポートフォリオ品目とこのサービスのクライアントであるポートフォリオ品目間に任意のタイプの関係を定義できるようになりました：[クライアント-リソース関係] テーブル（amClientResource）。

サービスとクライアント間に存在する関係のタイプを定義できます（一部である、接続されているなど）：[接続タイプ] テーブル（amCRType）。

関係タイプによって、サービスエラーのインパクトを定義することもできます。信頼性の最も高い代替解決策を選択する際に参考となる意思決定情報も得られます。

各ポートフォリオ品目の詳細画面にある複数の新規タブで、クライアントのポートフォリオ品目、サービスのポートフォリオ品目、関係タイプ、業務サービスを表示することができます。

これらのテーブルには、ナビゲーションバーにある[ポートフォリオ管理/業務サービス/業務サービス]リンクからアクセスできます。

ポートフォリオ品目：改良点

1つのポートフォリオ品目に対して複数のユーザを定義することができます（[ユーザ]リンク（Users）、タイプn）。

このリンクは単なる確認用です。デフォルトでは、どのプロセスからも参照されません。

このため、このリンクは、すでに存在するタイプ1の[ユーザ]リンク（User）とは置き換わりません。

この[ユーザ]リンクが、一部のプロセスで引き続き使用されます。

例：

- 資産に対する作業指示を要求するときにデフォルトで選択されるユーザが、資産ユーザです。

- ある資産をまかなう経費は、この資産のユーザに関連付けられます。
- ある資産のユーザが変わると、そのユーザの従属資産が自動的に更新されま
す。

作業指示：改良点

1つの作業指示に対して複数のポートフォリオ品目を定義することができます
([ポートフォリオ品目] リンク (Items) 、タイプn) 。

このリンクは単なる確認用です。デフォルトでは、どのプロセスからも参照され
ません。

[資産] タイプの1リンク (Asset) が、一部のプロセスで引き続き使用されま
す。

例：作業指示から作成された経費明細が、資産と関連付けられます。

サービス依頼（例：コンピュータのメモリの増設依頼）の改良点

ユーザが、標準依頼に追加された [モデル] リンク (Model) を使ってより簡単
にサービス依頼を管理できるようになりました。

このモデルは、サービスタイプに対応させることができます。

標準依頼をサービスタイプ別にグループ分けできるようになりました。

同じモデルにリンクされたサービスタイプが、サービスのカタログを形成しま
す。

標準依頼の詳細にある新規の [価格] フィールド (Price) で、サービスの社内
請求価格を指定できます。これにより、価格を記載した社内サービスカタログが
発行可能になります。

異なるサービスのカタログを管理するため、 [サービスのカタログ] ビュー
(Service_Catalog) が追加されました。

このビューを表示するには、ナビゲーションバーにある [ポートフォリオ管理/
拡張ポートフォリオ/サービスのカタログ] リンクをクリックしてください。

バーコードカタログ：機能の基本アプリケーションへの組み込み

バーコードカタログを作成するため新たに別のモジュールを取得する必要がなく
なりました。

カタログを、Windowsクライアントの [ポートフォリオ/バーコードによる棚
卸] メニューで作成できます。

マニュアル▶ 『主要テーブル』の「バーコードによる棚卸」の章

画面の事前フィルタ：改良点

メニューから表示されるテーブルに、表示前にフィルタをかけられるようになりました。

すべてのテーブルに対し、AssetCenter Database Administratorを使用して事前フィルタ画面に表示されるフィールドとリンクの一覧を定義することができます（【QBEフィールド】）。

マニュアル▶『はじめに』の「テーブル内で項目を検索する」にある「クエリウィザード (QBE)」の章

マニュアル▶『カスタマイズ』の「データベースのカスタマイズ」の章の「新規オブジェクトの作成/画面の作成」

リストのカスタマイズ：新機能

ユーザがリストに追加できるフィールドのリストを制限できるようになりました。

最初に管理者が、ユーザが所定の画面からアクセスできるフィールドとリンクのリストをAssetCenter Database Administratorで定義します。

- 【リストの列】フィールド（デフォルトで表示されるフィールドとリンク）
- 【その他の列】フィールド（ユーザがリストに追加できる付加的なフィールドやリンク）

次に管理者が、【リストの全フィールドとリンクの表示を許可する】チェックボックス (bFullListCfg) をクリアすることにより、ユーザプロファイルに基づいてこれらのフィールドへのアクセスを制限します。

AQL：改良点

リストのクエリフィルタ（【テーブル名/クエリによるフィルタ】）をトリガするクエリに変数を挿入できるようになりました。これにより、変数の値を入力できるフィールドが表示されます。

ユーザがカスタマイズのためにクエリ自体を書き直す必要がなくなるため、クエリフィルタのカスタマイズが容易になります。

クエリの例：

```
(DaysDiff(getdate(), dAcquisition) < $Days) AND (seAcquMethod = 0)
```

変数\$Days（\$文字と1つの単語から構成）は、クエリフィルタをトリガして、クエリ全体ではなく、Days:とフィールドを表示します。

データベース構造：変更

データベースの構造が変更または機能拡張されました（フィールド、リンク、インデックス、ページ、画面）。

- ▶ AssetCenterのインストール先フォルダの「doc\chm」サブフォルダにある「dbstruct.chm」ファイルに、AssetCenter 4.4.1のデータベース構造についての説明があります。
- ▶ AssetCenterのインストール先フォルダの「doc\infos」サブフォルダにある「diff441.html」または「diff441.xml」ファイルに、AssetCenterのデータベース構造におけるバージョン4.4.1と5.01間の相違点についての説明があります。

AutoCAD統合：削除

AssetCenterからAutoCADとの統合が削除されました。

インタフェース：変更

- Windowsクライアント：詳細画面の【破棄】ボタンが【削除】ボタンに変更されました。

言語

グラフィックインタフェースおよびマニュアルのサポート対象言語は、英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、中国語（簡体字）、および、日本語です。

TCO（総所有コスト）の計算

TCO計算方法が改善されました。

マニュアル▶『ファイナンス』の「TCO（総所有コスト）」の章

履歴 - バージョン4.2.2

- Windowsクライアントのユーザインタフェースが最適化が行われ、以下の項目が高速化されました。
 - ウィンドウを開く/閉じる動作
 - データベースへの接続/データベースからの接続解除
 - アプリケーションの開始と終了
- バグフィックス（ホットフィックス）

- DB2：クエリ実行の最適化が行われ、インデックスの使用が高速化されました。
- リンクレコードの削除：確認メッセージがわかりやすくなりました。
- Oracleデータベース：AssetCenter Database Administratorの [マイグレーション/データベースの変換] メニューでデータベースを変換すると、変換の最後に行われる整合性チェックがより早く実行されるようになりました。

履歴 - バージョン4.4.1

- ドイツ語、スペイン語、イタリア語および日本語のサポート
- SAM用の追加ウィザード

履歴 - バージョン4.4.0

- ワークフローと業務データの明細ウィザードを含む、拡張ソフトウェア資産機能
- ソフトウェア資産管理コントロールパネル
- 汎用コントロールパネル
- ライセンスコンプライアンスツール
- Desktop Inventoryアプリケーションライブラリとの統合
- パスワード管理
- LDAP SSLセキュリティ
- データベースモデルの非正規化に対する機能
- 前回の更新者情報のトラッキング
- 任意管理項目をフィールドに変換する機能
- ワークフローエンジンが更新されています。

履歴 - バージョン4.3.2

- マウスを使わずに操作できるユーザインタフェースを改良しました。
- AssetCenterはWindows NarratorまたはJawsなどのソフトウェアのアクセシビリティサーバとして機能します。
- 新しいマニュアル『アクセシビリティオプション』がAssetCenterに同梱されています。

- クエリのキャンセル機能：クエリが実際に複雑であるとわかった場合に途中でクエリの実行を中断させることができるため、ユーザインタフェースのフリーズを防ぐことができます。
- 日本語をサポートしました。
- データベースの作成とマイグレーションウィザードが新しくなりました。
- 管理ガイドが改善されました。

履歴 - バージョン4.3.1

- このバージョンの追加機能は特にありません。

履歴 - バージョン4.3.0

- AssetCenterクライアントの多言語実装。マニュアル『**管理**』を参照してください。
- データベースレコードのアーカイブ機能。マニュアル『**管理**』を参照してください。
- ライセンスとソフトウェアのインストールの管理機能の拡張。マニュアル『**ポートフォリオ**』を参照してください。
- 新しいデータ照合更新チェックモジュール。マニュアル『**照合更新**』を参照してください。
- レコードをグループ分けして仮想的な階層を作成する機能。マニュアル『**はじめに**』を参照してください。
- 汎用的なオーバーフロー機構。マニュアル『**管理**』の「**オーバーフローテーブル**」の節を参照してください。
- マイグレーションプロセスが単純化されました。
- クエリウィザード (QBE)。マニュアル『**はじめに**』の「**クエリウィザード (QBE)**」の節と、マニュアル『**AssetCenterの高度な使い方**』の「**クエリウィザード (QBE)の作成の例**」の節を参照してください。

履歴 - バージョン4.2.1

- *AssetCenter Web*：いくつかのメニュー/ページが追加または改善されています。
- *AssetCenter*データベースへの**接続管理**：本バージョンからは、「**システム**」接続と「**ユーザ**」接続を区別します。

- 任意管理項目の継承：継承可能な条件の一覧が変更されました。

履歴 - バージョン4.2.0

- IBM DB2 UDBデータベースエンジンのサポートが最適化されています。詳細については、互換対応表やAssetCenterのマニュアル『インストールとアップグレード』を参照してください。
- UnixのサポートにIBM AIXも含まれるようになりました。詳細については、互換対応表を参照してください。
- スケジュールのグラフィック表示。詳しくは、マニュアル『はじめに』を参照してください。

履歴 - バージョン4.1.0

- データベース編集用の機能が大幅に改善されました。階層構造をもつテーブル、任意管理項目や金額フィールドがサポートされています。
- 一部のポートフォリオ品目専用の画面（電話機、コンピュータなど）
- AssetCenter旧バージョンからのマイグレーションは、完全にサポートされています。
- データベースマイグレーション用ツール：Script Analyzer
- 非グラフィカルモードでUnixがサポートされています。
- GUIとマニュアルは、フランス語、英語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、ポーランド語と日本語の7ヶ国語で提供されています。
- 経費付替えモジュールの改善
- ログファイル閲覧用のツール（ログビューア）が、AssetCenterに付属しています。

履歴 - バージョン4.0.0

- カタログ管理
- 電話、コンピュータなどのポートフォリオ品目の管理の拡張
- データベースのカスタマイズ（例：フィールドやリンクの追加）
- 画面のカスタマイズ。ユーザは、必要な情報のみを含んだ画面を各自に作成できます。
- 調達サイクルの全面的な改訂

- 機能権限。機能グループを定義すると、これを基準にデータへのアクセスを制限できます。各ユーザがAssetCenterで必要な機能のみにアクセスするように設定できます。
- 経費付替え機能
- 詳細な予算管理
- ケーブルの完全管理
- Remote Control、Desktop Inventory、Get-Answersなどの、他のHP OpenView製品との完全な統合

4 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル

AssetCenterスイートのプログラムが設定ファイル（拡張子「.ini」と「.cfg」）に関連付けられました。

使用可能な「.ini」および「.cfg」ファイル

主に使用可能な「.ini」および「.cfg」ファイルを以下にリストします。

表 4.1. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイル一覧

プログラム (Windowsでは「.exe」または「.dll」、Unixでは一般に「.so」を追加)	「.ini」または「.cfg」ファイル	説明
AssetCenter am	aamdisk50.ini	ユーザ表示オプション。 このファイルを削除すれば、デフォルトの画面表示オプションに戻すことができます。
AssetCenter Database Administrator amdba amdbal	am.ini amdba.ini amdbal.ini	AssetCenterユーザオプション。 AssetCenter Database Administratorユーザオプション。 ユーザ表示オプション。

プログラム (Windowsでは「.exe」または「.dll」、Unixでは一般に「.so」を追加)	「.ini」または「.cfg」ファイル	説明
AssetCenter Export amexp amexpl	amexp.ini amexpl.ini	AssetCenter Exportユーザオプション。 ユーザ表示オプション。
AssetCenter Import amimpl	amimpl.ini	AssetCenter Importユーザオプション。 ユーザ表示オプション。
AssetCenter Script Analyzer amsq	amsq.ini	AssetCenter Script Analyzerユーザオプション。 ユーザ表示オプション。
AssetCenter Server amsrv amsrvl	amsrv.ini amsrv.cfg amsrvl.ini amsrvl.ini	AssetCenter Serverユーザオプション。 ユーザ表示オプション。
AssetCenter API aamapi43	aamapi50.ini	Webサーバとして稼動するAssetCenter Server 用パラメータ プログラムオプション。
上記のすべてのプログラム	amdb.ini mail.ini	データベース接続リスト。 AssetCenterメッセージシステムの設定。

表 4.2. 「.ini」 および 「.cfg」 ファイル - 主なファイルの場所

「.ini」または「.cfg」ファイル	場所
aamdsk50.ini	Windows 9xまたはME : Windowsルートインストールフォルダ
am.ini	Windows (NTファミリ) : \<Documents and Settings>\<Windows user> フォルダ
amdba.ini	Unix : ~/HP OpenView/フォルダ
am.ini	
amdba.ini	
amdbal.ini	
amexp.ini	
amexpl.ini	
amimpl.ini	
amsq.ini	
amsrv.ini	
amsrvl.ini	
aamapi50.ini	
amsrvl.ini	amsrv実行可能ファイルと同じフォルダ

「.ini」または「.cfg」ファイル	場所
amsrv.cfg	amsrv実行可能ファイルと同じフォルダ
	<p>注意:</p> <p>旧バージョンのAssetCenterからアップグレードした場合、amsrv.cfgはamsrv実行可能ファイルの親フォルダにまだ格納されている場合がありますが、このファイルも問題なく機能します。</p>
amdb.ini	<p>Windows 9xまたはME : Windowsルートインストールフォルダ</p> <p>Windows (NTファミリ) :</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システム接続 : Windowsルートインストールフォルダ ■ ユーザ接続 : \<Documents and Settings>\<Windows user> フォルダ <p>Unix :</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ システム接続 : /etc/HP OpenView/フォルダ ■ ユーザ接続 : ~/HP OpenView/フォルダ
mail.ini	Unix : ~フォルダ

「.ini」ファイルの変更

「.ini」ファイルのエントリは以下のように変更できます。

- ソフトウェア上で変更が承認されたとき、またはユーザがアプリケーションを終了したときに変更が保存されます。ユーザが【ファイル/終了】メニューを使わずにアプリケーションを終了した場合、変更は保存されません。
- 手動でも変更できます。

「.ini」ファイルのエントリの変更は、できる限りAssetCenterおよびその関連プログラムを使って行うことをお勧めします。

ただし、手動でしか作成および変更できない.iniファイルエントリもあります。

注意:

「.ini」ファイルの手動による変更は高度な作業なので、十分な知識を持つ人だけが実行してください。

以下の表は、変更の対象となる「.ini」ファイルのエントリを示します。これらのエントリは手動でしか変更できません。

注意:

これらの表は、「.ini」ファイルのエントリの一部だけを紹介しています。すべてのエントリが記載されているわけではありません。ここに記載されていないセクションとエントリは、手動で変更しないでください。

ブール値のエントリは、「1」または「0」で記載されています。これらの代わりに、「True」または「False」を使用することもできます。

「am.ini」ファイルのエントリ

[OPTION] セクション

表 4.3. [OPTION] セクション

エントリ	説明
bSaveOptionOnExit	このエントリを「0」に設定すると、AssetCenterを終了したときに[option]セクションの変更されたエントリが保存されなくなります。 デフォルトでは変更は保存されます。
g_bAllowFlyCreate	リンクしているレコードの仮作成を許可するかどうか。 <ul style="list-style-type: none"> 0：仮作成を許可しません。 1：仮作成を許可します。 デフォルト値：1
CmdComboLines	ツールバーからアクセスできるビューやアクションリストに表示される行の数を制限します。
CNtbkTabCfg.bShowFlyby	詳細画面のタブのヒントを表示するかどうか。 <ul style="list-style-type: none"> 0：表示しない。 1：表示する。
KeyIniFileName	「aamds50.ini」ファイルのパス名を設定します。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content;">KeyIniFileName=aamds50.ini</div> 例: AssetCenterが使用するファイル「aamds50.ini」は、ネットワークハードディスク上に置くこともできます。この場合、このファイルを読み取り専用で設定できます。ユーザは設定を変更できません。
NewMailLastCheck	AssetCenterメッセージが最後に読み取られた時刻。 単位：1970年1月1日からの経過秒数
opt_bAskForConcurrentModifications	このエントリは、他のユーザが同じレコードを変更している最中に【変更】ボタンを押したときに、AssetCenterが確認のダイアログボックスを表示するかどうかを決定します。 <ul style="list-style-type: none"> 1：確認のダイアログボックスを表示する。 0：確認のダイアログボックスを表示せずに変更を保存する。

エン트리	説明
opt_bCommitDeletesOneByOne	このオプションは複数のレコードを削除する際に用いられます。これを有効にすると、AssetCenterはレコードを1個ずつ（1レコードにつき1トランザクション）削除します。有効にしないと、AssetCenterは複数のレコードを1つのトランザクションで削除します。 デフォルト値：0
opt_ImportCacheSize	照合更新キーを使ったデータのインポートで、インポートの性能を向上させるためのキャッシュメモリの値を設定します。 単位：見つかったレコードの数。 デフォルト値：100
StartSunday	週の最初の日を月曜（StartSunday=0）または日曜（StartSunday=1）に設定します。 このオプションはカレンダーで用いられます。

[SQL] セクション

表 4.4. [SQL] セクション

エン트리	説明
OracleDLL	Oracleとの対話のためにロードするOracleのDLLの名前を設定します。

「amsrv.ini」ファイルのエン트리

[OPTION] セクション

表 4.5. [OPTION] セクション

エン트리	説明
MaxRentPerTrans	このエント리는、賃貸料の生成に用いられます。 1トランザクションあたりの賃貸料計算の最大数を設定します。 デフォルト値：200
MaxMsgInList	AssetCenter Serverのメインウィンドウのリストに表示される行の数を設定します。 デフォルト値：5000

エントリ	説明
<Module>LastCheck ここで、<モジュール>は、 Alarms、CostCenter、 HDAlarms、History、LostVal、 Rent、Stats、Stock、TimeZone、 UpdateToken、WkGroup、 WkGroup <xxx>、WorkflowFinder に設定できます。	末尾に「LastCheck」が付く行は、最新のモジュール実行日付を表します。 これらは、AssetCenter Serverが再起動されたときに次のモジュール実行を計算するために用いられます。 実行グループ<xxx>が存在しなくなった場合（あるいは実行グループなしのワークフローチャートが存在しない場合）、 [WkGroup <xxx> LastCheck] の行（または [WkGroupLastCheck] の行）を削除することもできます。 これはプログラムによって自動的に実行されません。

「amsrvcf.ini」ファイルのエントリ

「amsrvcf.ini」ファイルのエントリに関する説明は、インストール時に作成されるこのファイルの中にあります。

「amexp.ini」ファイルのエントリ

[OPTION] セクション

表 4.6. [OPTION] セクション

エントリ	説明
MaxOldDoc	[ファイル] メニューに表示されるドキュメント履歴の最大数。

「amdb.ini」ファイルのエントリ

AssetCenter接続を記述している各セクションの以下のエントリを変更しなければなりません場合があります。

表 4.7. 「amdb.ini」ファイルのエントリ

エントリ	説明
AmApiDll	AssetCenterのaamapi50 API DLLへのパスを設定します。 このエントリは、Connect-ItおよびOAAで用いられます。
FetchingArraySize	SQLコマンドを実行する際のパケットによる取得行数。 デフォルト値：30

エントリ	説明
OdbcLockingTime	<p>Microsoft SQL Serverデータベース（MSDEを含む）の場合に、レコードが他のユーザからロックされているとみなされる時間を設定します。</p> <p>単位：秒</p> <p>デフォルト値：60</p> <p>警告:</p> <p>この値が小さすぎると、過負荷のサーバの場合にインポートプロセスが中断されるおそれがあります。</p>
OldStyleCatalog	<p>Oracleデータベースにおいて、デフォルトの [All_Catalog] ビューの代わりに [Tab] ビューを使用します。</p> <p>このエントリには次の2つの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1： [Tab] を使用 ■ 0： [All-Catalog] を使用

「.ini」ファイルの変更を制御する

オプションを変更するとそれぞれのアプリケーションにより「.ini」ファイルが自動的に変更されます。

複数の実行可能ファイルまたは実行可能ファイルのインスタンスが同じ「.ini」ファイルに関連付けられている場合、変更を保存する最新の実行可能ファイルが優先されます。

ファイルの変更を制御したい場合、「.ini」を読み取り専用を設定することをお勧めします。

「aamapi50.ini」ファイルに対しては特にお勧めします。

5 AssetCenterの旧バージョンのアップグレード

AssetCenterのアップグレード操作は旧バージョンの番号によって異なります。

表 5.1. AssetCenterの旧バージョンのアップグレード - 実行方法

更新するバージョン番号	実行方法	参照マニュアル
バージョン4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0x	標準的なケースでは、簡易アップグレードで十分です。	マニュアル『インストールとアップグレード』の「旧バージョンのアップグレード」の章、「AssetCenter 4.2.x、4.3.x、4.4.x、または5.0xのアップグレード - 概要」の節
	簡易アップグレードに失敗した場合は、簡易マイグレーションを実行する必要があります。	マニュアル『マイグレーション』
バージョン4.1.xまたはそれ以前	完全マイグレーション	マニュアル『マイグレーション』

6 修正されたバグ

この章では、AssetCenterで修正された主なバグについて詳しく説明します。
以下の表には2つの列があります。

- **バグ番号**：バグの番号（または新機能の番号）がわかっている場合、表に番号が示されているので簡単に見つけることができます。
- **説明**：バグまたは新機能に関する簡単な説明

バージョン5.01

AM511112015	賃貸料を資産に追加する際のエラー
AM82418420	UNIX上でWebサービスをスタブする際、タイムアウトが発生します。
AM95112956	Webクライアントを通じて、ユーザをコンピュータに追加できません。
AM911153824	Webクライアントでは、ユーザがレコードの読み取り権限を持たない場合、AssetCenterは、「このレコードを参照する権限がありません(読み取り権限がありません)。」エラーではなく、「レコードはデータベースに存在しません。」エラーを表示していました。
AM101714449	ケーブルモデルから、 【モデルのペア/導線】 (Pairs) を削除できません。
AM125182940	【ポートフォリオ管理/ソフトウェアカウンタの結果】 リンクをクリックすると表示されるウィンドウで、 【インストール】 ボタンをクリックしても、 【CPU速度別】 ライセンスタイプをカウントするようにカウンタを変更できませんでした。
AM125183323	【インストール/使用計算モード】 (seInstallCountMode) フィールドが 【計算式によるカウント】 に等しいモデルを基にカウンタを作成した場合、計算式が継承されませんでした。

AM12519817	資格のリストを定義するのに従業員や部署を選択しようとして、【ソフトウェアライセンス管理カウンタの作成...】ウィザード (sysSamCreateSoftwareCounter) を使用するとエラーが発生しました。
AM927153041 (688578)	複数ユーザがAssetCenter APIを同時に使用しようとする、一般保護違反が発生しました。
AM101318169 (691474)	特定の特殊フィールドで【ジャンプ...】ショートカットメニューを使用すると、一般保護違反が発生しました。
AM62814470 (557979,698809, 698821)	MultiLineEditタイプコントロールのラベルが表示されず、改行が生成されませんでした。
AM112135538 (692836)	資産のリストで、【発注明細】 (POrdLine) -> 【発注明細】 (POrdLine) リンクに従うと、発注の詳細のフィールドとリンクが表示できませんでした。
AM119202322 (693765)	アーカイブされたワークフローインスタンスが、アーカイブされたレコードからアクセスできませんでした。
AM1115163242 (688304)	特定レコードの【コメント】フィールドが既に入力されている場合、一部のレコードの【コメント】フィールドを更新しようとする、一般保護違反が発生しました。
AM103118936 (626233)	AssetCenter Serverで、【賃貸料とローンの計算】 (Rent) モジュールを実行時にエラーが発生しました。
AM112152514 (711810)	【管理条件】フィールド (seMgtConstraint) が【個別管理しない】に等しい属性に (モデルを通じて) リンクされている資産を部分的に受領する際、エラーが発生しました。
AM717173712 (671270)	AssetCenter Database Administratorで、【参照オブジェクト】 (DocObject) リンクが入力されていない【ドキュメント】 (amDocument) テーブルにレコードが存在する場合に、データベース修復ツール (【アクション/データベースの診断/修復...】メニュー) を実行するとエラーが発生しました。
AM727152342	AssetCenter Database Administratorで画面を変更後、Webクライアントで画面を表示すると、「このドキュメントの作業を続けることができません。定義が変更されています。」エラーメッセージが表示されました。
AM811155627	Webクライアントで、【承認日】 (dCertification) と【承認の終了日】 (dCertifEnd) フィールドが、製品の詳細の正しい場所に表示されませんでした。
AM811162044	Webクライアントで、【転売価格】フィールド (mResalePrice) が、資産の詳細の正しい場所に表示されませんでした。
AM811181836	【ポートフォリオ管理/ライセンス/ソフトウェアの管理...】リンクをクリックしてから、【ライセンスおよびソフトウェアのインストールの準備...】画面上の【ソフトウェアライセンスの変更】ボタンをクリックすると、表示されるリストには、ライセンスのみではなくライセンスとインストールが含まれていました。
AM814174412	【管理条件】フィールド (seMgtConstraint) が【個別管理しない】または【資産タグ】に設定されている属性にリンクされたモデルを作成すると、【全般】タブ上の【単位】フレームがマスクされていました。
AM82220435	【ライセンス情報の入力】ページ上の【ソフトウェアライセンスの依頼】ウィザードを実行すると、【タイトル】フィールドのラベルが正しくありませんでした (【資産タグ】フィールドのラベルが表示されていました)。

AM828154414	新規ドキュメントをインポートしても、契約の詳細の【ドキュメント】タブの【サイズ】および【データベースに保存】フィールドが更新されませんでした。ページを更新する必要がありました。
AM831143622	ユーザが画面を変更して保存しないでデータベースの言語を変更すると、ユーザに通知されないまま画面への変更が保存されていました。
AM95174723	Webクライアントで、日付タイプのフィールドの値に依存するカスタムクエリを使用してリストをフィルタすると、エラーが発生しました。
AM97161833	【デバイスのトレースをエクスポート...】アクション (sysCableOutDevTr) をWebクライアントを通じて実行すると、エラーが発生しました。
AM98125428	Webクライアントで、ウィザードのOPTIONBUTTONSおよびTEXTBOXタイプのコントロールは、接続しているユーザに対して対応フィールドが読み取り専用であっても、変更可能でした。
AM981762	【割当】フィールド (seAssignment) の値が【在庫中】に変更されても、ポートフォリオ品目のユーザのリストが空欄になりませんでした。
AM12163519 (708647)	AssetCenter 4.3.2バージョンのデータベースをバージョン5.00に変換してから、Webサービス定義チェックウィザードを実行すると、「タイプ 'SMRIGHTEDITOR' のノードは、'pgDefaultRight' のサブノードに指定できません。」エラーメッセージが表示されました。
AM125191347 (712821)	一部のインスタンスで、AssetCenter4.4.1データベースを5.00に変換すると、アーカイブされたテーブルがアクセスできなくなりました。
AM125191818 (711956)	DB配下のポートフォリオ品目の表示に時間がかかりました。
AM94173151	製品の詳細で、製品に関連付けられたモデルの属性に関わらず、【従業員】タブが表示されていました。 【従業員】タブは、属性が【作業指示】である製品に対してのみ表示される必要がありました。
AM1116154926 (697910)	AmExecTransition()関数を使用するウィザードを実行すると、一般保護違反が発生しました。

履歴 - バージョン5.00

バグ番号/拡張依頼	説明
AM1228164219	英語版のAssetCenterに見られるバグです。 英語版の「予算の作成」ウィザード (sysFinBudgetCreate) で、いくつかのラベルがフランス語で表示されていました。
AM47171655	多言語データベースに関するバグです (データベースは、AssetCenter Database Administrator、【アクション/データベースに言語を挿入】メニューを使ってマルチリングルにすることができます)。 ある言語のカスタマイズページを変更すると、別の言語でも同じページのラベルが上書きされました。

AM3911478	<p>アーカイブを有効にした場合のOracleデータベースに関するバグです (AssetCenter Database Administrator、[データベース/アーカイブを有効にする]メニュー)。 複数のレコードを同時にアーカイブしたときにエラーが発生しました。</p>
AM1962720	<p>AssetCenter Database Administratorを使って構造とデータをエクスポートしてから再インポートした場合のデータベースに関するバグです。 AssetCenter Windowsクライアントが再作成されたデータベースに接続したときに、「データベースまたはファイル内にデータベースの記述がありません。」というエラーメッセージが表示されました。</p>
AM2422339	<p>詳細画面の表示のしかたに関するバグです。 デフォルトで、一部のフィールドが非表示になっていました。 ユーザがマウスカーソルを使って列の区切りを見つけ、手動で列を広げてフィールドを表示させる必要がありました。</p>
AM128121256	<p>資産をポートフォリオから削除したときのソフトウェアの動作に関するバグです。 資産をポートフォリオ（[割当]（seAssignment）フィールド）から削除したときに、資産にリンクしているライセンスのライセンス割当が解除されませんでした（[ユーザ]（ユーザ）および[親レコード]（親）リンクが空になりませんでした）。</p>
AM51011573	<p>マイグレーション中のデータベースの変換に関するバグです。 依頼明細と発注明細間のリンクと、資産と受領明細間のリンクが失われました。</p>
AM510181631 と AM120155225	<p>アーカイブを有効にした状態のデータベースに関するバグです（AssetCenter Database Administrator、[データベース/アーカイブを有効にする]メニュー）。 テーブルのページの1つにAssetCenter Database Administratorを使って新規フィールドが追加された場合、Windowsクライアントがデータベースに接続したときに[フィールドXXXがテーブルYYY内にありません。]というエラーメッセージが表示されました。</p>
AM524203228	<p>「amdb.ini」ファイルにTABLESPACEINDEX=XXXのような行が存在するデータベースに関するバグです。 AssetCenter Database Administratorによって新しいインデックスを作成しようとするとエラーが発生しました。</p>
AM527192938	<p>[ユーティリティ/この列に関する統計] ショートカットメニューの使用に関するバグです。 統計の計算に、ユーザアクセス制限が考慮されていませんでした。</p>
AM629165125	<p>必須フィールドが空のレコードを保存するときに発生したバグです。 AssetCenterは、ユーザへの警告なしにレコードを保存していました。</p>
AM85191735	<p>接続にLDAP認証を使用しており、匿名アクセスが無効化されているデータベースに関するバグです。 LDAPアカウントが無効になったユーザでも、AssetCenterデータベースに引き続き接続できていました。</p>

AM85174839	<p>フィールドが複数の列に渡って表示される特定詳細画面に関するバグです。</p> <p>フィールドの列が非表示になる場合があります。ユーザがマウスカーソルを使って列の区切りを見つけ、手で列を広げてフィールドを表示させる必要がありました。</p>
AM1014164642	<p>ユーザがWindows 2000、XP、またはServer 2003統合セキュリティを使って接続できるデータベースに関するバグです（これらのユーザのログインは <code>[domain]\[user]</code> です）。</p> <p>[統合NTセキュリティ使用] チェックボックスをクリアにした状態では、ユーザが、<code>[domain]\[user]</code>として任意のパスワードでデータベースに接続できていました。</p> <p>エラーメッセージは表示されるものの、ユーザは接続を行えました。</p>
AM10519459	<p>ユーザがレコードの選択を変更しようとしたときに発生したバグです。</p> <p>一部のフィールドに値が入力されていない、というメッセージが表示されて、AssetCenterが変更の保存を拒否する場合があります。</p>
AM211162513	<p>すべての詳細画面の [ドキュメント] タブに関するバグです。</p> <p>[切断] ボタンが正しく機能しませんでした。</p>
AM318154620	<p>AssetCenter Serverが実行グループのワークフロー規則を実行する方法に関するバグです。</p> <p>AssetCenter Serverは、起動条件がチェックされなかった場合でもワークフローイベントを保存していました。</p>
AM419154852	<p>発注された資産を発注された保証にリンクする、発注に関するバグです。</p> <p>受領時に、資産と保証のリンクが正しくありませんでした。</p>
AM525133645	<p>複数の親資産と、親資産にリンクされた複数のコンポーネントから構成された発注に関するバグです。</p> <p>主要資産の受領がずれたときには、受領した主要資産にリンクされているコンポーネントの数が不正確になっていました。</p>
AM47152019	<p>AssetCenter Database Administratorを使った金額フィールドの削除に関するバグです。</p> <p>削除中にエラーが発生しました。</p>
AM1031111754	<p>すべてのテーブルの [ドキュメント] タブに関するバグです。</p> <p>[実行] ボタンをクリックすると、[変更] ボタンが理由もなく有効になっていました。</p>
AM22420549	<p>[システムテーブル] (SysBlob) に関するバグです。</p> <p>このテーブルに対してユーザ権限を定義できました。</p>
AM817181418	<p>ビューの編集に関するバグです。</p> <p>ユーザが管理者権限なしにビューを編集できました。</p>
AM424115636	<p>[この列をリストに追加] ショートカットメニュー項目が表示される方法に関するバグです（詳細画面のフィールドとリンク）。</p> <p>このメニュー項目が、リストに追加できないリンクに使用可能でした。</p>
AM511154712	<p>AQLクエリでの <code>amGetRecordHandle()</code> APIの使用に関するバグです。</p> <p>APIによって処理されているクエリのフィールドにエイリアスを指定できませんでした。</p>

AM92220209	<p>アーカイブを有効にした状態のデータベースに関するバグです (AssetCenter Database Administrator、[データベース/アーカイブを有効にする] メニュー)。</p> <p>[ドキュメント] (amDocument) テーブルを表示すると、特殊フィールド <i>cf_sysCoreDocBlobExists</i> でエラーが発生しました。</p>
AM979534	<p>AssetCenterデータベースへの一時アクセスタイプのユーザに関するバグです。これらのユーザが、[ドキュメント] (amDocument) テーブルにアクセスできませんでした。</p>
AM93133619	<p>発注の詳細に表示されている [作成] ボタンに関するバグです。</p> <p>ボタンを有効にした [Status cde.] フィールド (seStatus) の値のリストが不正確でした。このため、[作成] ボタンを有効にすると断続的なエラーが発生しました。</p>
AM1020132346	<p>[部署と従業員] (amEmplDept) テーブルのAdminユーザに関するバグです。</p> <p>このユーザの名前を変更すると、AssetCenter Database Administratorを使ってデータベース構造の変更を保存できませんでした (エラーORA-00001: unique constraint (AC421.EMPLDEPT_IDNO) violated (一意条件 (AC421.EMPLDEPT_IDNO) に違反))。</p>
AM112131749	<p>ユーザ権限の詳細の [権限] タブの下の [経費明細] (amExpenseLine) テーブルの表示に関するバグです。</p> <p>[ファイナンス] テーブルが起動されていない場合 ([ファイル/モジュールの起動] メニュー)、このテーブルが表示されませんでした。</p> <p>購入価格によって資産を作成するなど多くの場合、[ファイナンス] モジュールが起動されていない場合でも、AssetCenterでは経費明細を自動的に作成する必要があります。</p>
AM11418616	<p>ウィザードのリストに関するバグです (LISTBOXコントロール)。</p> <p>リストの列の1つのサイズが0のときに、列のタイトルと内容が整合しなくなりました。</p>

履歴 - バージョン4.2.2

バグ番号/拡張依頼	説明
AM524203228	Oracleでは、 <i>tablespaceindex</i> をamdb.iniファイルで指定した場合、インデックスをAssetCenterデータベースに追加できませんでした。

バグ番号/拡張依 説明
頼

AM610173417	AssetCenter データベースに多くのBASICスクリプトが含まれている場合、データベースに接続する際、または、特定テーブルを表示する際に、「記号テーブルがいっぱいです。」エラーメッセージが表示されました。 この問題を回避するには、以下の手順を実行します。 1 AssetCenter Windowsクライアントを起動します。 2 データベースに接続します。 3 【管理/データベースオプション】メニューで、データベースオプションを表示します。 4 【スクリプトエンジン/エンジンごとのスクリプト数】の値を、エラーメッセージが消えるまで減らしてください。
AM6221756	【ユーティリティ/この列に関する統計】ショートカットメニューで表示した統計が、接続したユーザのアクセス制限を考慮していませんでした。
AM629165125	ある環境で、必須であるフィールドおよびリンクテーブルのリンクを入力することなく、レコードを保存できてしまいました。
AM85191735	LDAPディレクトリを使用してデータベースへの接続を管理する場合に、AssetCenterではLDAPユーザロックが考慮されませんでした。
AM85174839と AM2422339	ある場合に、フィールドおよびリンクの【無関係】スクリプトの値をはいからいいえに変更すると、そのフィールドおよびリンクが正しく表示されませんでした。
AM42118428	AssetCenter 4.3.2データベースマイグレーションの信頼性が向上しました。
AM114121327	マイグレーション中のJavaメモリ管理が改善されました。
AM621182715	【コメント】(amComment) テーブルへのOwnCopyタイプのリンクは作成できませんでした。
AM1221162330	発注明細の配達に時差がある場合、合計発注数量が正しく保持されず、受領したポートフォリオ品目の【割当】フィールド(seAssignment)が正しく更新されませんでした。
AM1210161213	同じ発注に含まれる別々の発注明細の【親レコード】リンク(親)に、同一の値を割り当てることができませんでした。
AM31116192	AssetCenterデータベースへの接続に使用する接続名にアンダースコア(_)が含まれている場合、データベースのカスタマイズを保存できませんでした。
AM1215114941	PortfolioItem.Location.Cityリンクの統計を、資産のリストから表示できませんでした。
AM121785557	作業指示の詳細で、作業指示が閉じられる際に【合計実働時間】(tsCumulLaborHours)フィールドが正しく表示されませんでした。
AM1031111754	レコードの詳細の【ドキュメント】タブで、【実行】ボタンをクリックすると【変更】ボタンが有効になってしまいました。
AM121144536 とAM12317569	【マイグレーション/アプリケーションデータの復元】メニューをAssetCenterとDatabase Administratorで使用できませんでした。
AM26163537	発注の詳細で、依頼がプロジェクトに関連付けられている場合に、受領待ちの品目を作成(【作成】)してから受領(【受領】)すると、エラーが発生していました。

バグ番号/拡張依
頼 説明

AM1130154046	以下のフィールドが入力されている場合、作業指示を作成できませんでした。 <ul style="list-style-type: none">■ [報告日] (dtNotif)■ [作業完了日] (dtActualFixed)■ [作業開始日] (dtActualFixStart)■ [終了予定日] (dtSchedFixed)■ [開始予定日] (dtSchedFixStart)
AM513135639	レコードの詳細で、リンクの表示サイズを変更すると、リンクを説明するテキストの最初の部分が省略されていました。
AM525133645	1つの依頼に【親レコード】リンク(親)で関連付けられる2つの依頼明細が含まれ、子明細が親明細よりも先に受領された場合、受領子アイテムの数量が、受領親アイテムに均等に分配されませんでした。
AM110134219	【管理条件】フィールドが【個別管理しない】の属性にリンクされているモデルの発注明細を部分的に受領することができませんでした。
AM36183913	LDAPディレクトリを使用するAssetCenterデータベースの接続を解除しようとすると、LDAP接続を閉じることができませんでした。
AM85191735	ユーザプロファイルでアクセスがブロックされているAssetCenterユーザが、LDAPディレクトリ経由で接続可能でした。
AM419154852	資産と保証を同時に注文すると、資産と契約間のリンクが受領に正しく表示されませんでした。
AM317144754	データベースが多くの上在庫規則を持つ場合に【在庫の検証】(在庫)モジュールを実行すると、AssetCenter Serverがフリーズすることがありました。
AM33120039	ウィザード遷移の評価のタイミングが誤っていました。このため、遷移条件の評価が困難でした。
AM427212738	ある条件下で、【コメント】(amComment)テーブルにレコードを作成する際、そのレコードが他のテーブルにある元レコードに関連付けられませんでした。
AM123117452	Microsoft Accessで、AccessテーブルとAssetCenterテーブルへのリンク間に結合のあるクエリを作成し、その結合の識別子タイプがテキストの場合、正しい結果は得られませんでした。
AM413142533	依頼を実行(【実行】ボタン)すると、受領品目の数量の更新に失敗していました。
AM515144754	ある環境で、ワークフローチャートのデータベースからのエクスポート、および、他のデータベースへのインポートが正しく実行されませんでした(ワークフローチャートの詳細、【エクスポート】および【インポート】ボタン)。
AM517144123	Oracleでは、【ポートフォリオ品目】(amPortfolio)テーブルをアーカイブできませんでした。
AM522182836	256以上のフィールドとリンクを持つテーブルに対するアーカイブクエリが省略されていました。

バグ番号/拡張依 説明
頼

AM614163416 メインテーブルの詳細画面のタブに他のテーブルからのページが表示される際、アクセス制限の読取り条件が正しく解釈されませんでした。このため、ページが非アクティブとして表示されることがありました。

履歴 - バージョン4.4.1

バグ番号/拡張番 説明
号

AM42163840 アクセス制御は、まれに親（未定義【親ドメイン】（親）リンク）のない機能ドメインを無視することがありました。

AM111193444 チケットのトラッキングの詳細で、複数チケットを選択した際、【ステータス】（seStatus）フィールドを、【クローズドおよび検証済】に変更できない場合があります。

AM3911478 AssetCenterでOracle RDBMSを使用すると、他の複数レコードにリンクされ、それらが【コメント】（amComment）テーブル中のレコードにリンクされているレコードは、アーカイブできませんでした。
例: 発注明細にリンクされ、さらに、発注明細がコメント（【コメント】リンク）にリンクされている発注。

AM22513358, AM21174852, AM22492731, AM47154645, AM4141865, AM2118621, AM14123050, AM1228173221, AM11215153, AM21131445, AM315124536, AM4141865

アクセシビリティオプションでの大幅な改善。

AM101813572 【インストールからソフトウェアライセンスタイプ（モデル）を作成】ウィザード（sysSamCreateLicModFromInst）の最後のページで、作成されるモデルが表示されませんでした。

AM1221181950 【ソフトウェアアカウント】テーブル（amSoftLicCounter）では、多くのフィールドに無関連スクリプトがありました。

AM21016659 【ソフトウェアの割り当て】ウィザード（sysSamEntitleUserOrItem）の【割り当てるライセンスの選択】ページで、最初のリストに正しいレコードが含まれませんでした。

AM3109479 【ソフトウェアの管理】ウィザード（sysSamLauncher）は、現在関連付けられている契約が契約のテーブルから削除された場合、正しく動作しませんでした。

バグ番号/拡張番号	説明
AM348923	【単純カウンタの作成】ウィザード (sysSamSimpleSoftCounterCreate) により、作成されたカウンタの【権限計算モード】 (seLicCountMode) フィールドに正しく入力されませんでした。
AM349812	【インストールからソフトウェアライセンスタイプ (モデル) を作成】ウィザード (sysSamCreateLicModFromInst) の2ページ目で、【ライセンス (モデル) の確認】ラベルが正しくありませんでした。
AM2718152	【ソフトウェアの管理】ウィザード (sysSamLauncher) で、【前のステップ】が複数回表示されることがありました。
AM29103756	【新しいソフトウェア契約 (原案) の作成】ウィザード実行後に表示されるレポートが、空白のままでした。
AM128121256	資産からポートフォリオ品目を削除すると、そのポートフォリオ品目に関連付けられたソフトウェアライセンスは、割り当てが解除されるのではなく、一緒に削除されていました。
AM54163024	【ソフトウェアライセンスの依頼】ウィザード (sysSamCreateLicReq) の最後のページが空白でした。
AM1110171030	【コストセンタごとのインストールをカウント】モデルカウンタ (BST_SAM05) が、不正確でした。
AM12618516	【権限数とインストール数を再計算】ウィザード (sysSamReCalcCounters) を、選択したカウンタすべてに適用することができるようになりました。必要に応じて、計算時間を短縮することができます。
AM1228164219	英語バージョンの【予算の作成】ウィザード (sysFinBudgetCreate) で、一部のラベルがフランス語で表示されていました。
AM47171655	AssetCenter Database Administratorを使用して多言語データベースのカスタマイズを行うと、変更の保存の際に言語が混用されていました。

履歴 - バージョン4.4.0

バグ番号/拡張依頼	説明
RFP219144517 (Centerpoint 405068)	AssetCenterは、フィルタの連番を正しく保存します。例えば、詳細画面フィールドでのフィルタ (【このフィールドで検索】ショートカットメニュー) とシンプルフィルタから成る1つのフィルタが保存され、次回、画面を開いたときにデフォルトで再度適用されます。
AM21805156 (Centerpoint 404946)	スクリプトタイプのアクションのスクリプトで、アクションをテストするときに (【テスト】ボタン)、シンタックスSet [<フィールド>] = <Value>が機能しません。
AM42163840	階層レベル0の機能ドメインは、アクセス制限で考慮されません。
AM63145351	列での統計では、アクセス制限は考慮されません。
AM914165310	AmDeleteLink()関数に関する問題です。
AM91192631	接続設定ファイルが、Windows 98で間違っていて処理されています。
AM48161743	【【無関連】フィールドを読み取り専用で表示する】オプションを有効にすると、入力されたリンク先の情報の一部が失われるか、変更中にエラーが発生します。

バグ番号/拡張依頼	説明
AM415181913	AssetCenterメッセージアクションで参照されたリンクからデータの値が戻りません（空の値が戻ります）。
AM618142419	タブフォーマットの情報を更新するときに、データ入力権限がチェックされません。【連絡先】（amThirdParty）テーブルが、リースモジュールではなく契約モジュールに含まれるようになりました。
AM7815143	【カタログリファレンス】画面を開くと一般保護違反が発生します。
AM730153214	【資産とロット】画面の【ポートフォリオ品目】タブにポートフォリオ品目のモデルを入力することができません。
AM82142931	接続スロットを参照できるのは、Adminユーザだけです。
AM123191157, AM123194758, AM123110351, AM15134956	改善されたJawsサポート
AM1124193751	コンテキストとしてamAssetを持つアクションによって、間違った値が返されます。
AM81483457	デフォルト値を計算するとき、存在しない主キーの値を外部キーとして割り当てることが可能です。
AM104101436	MS SQL Serverで、リストをエクスポートするときに、エクスポートされないレコードがあります。
AM95121126	フィールド上の【無関連】プロパティに関連する問題です。
AM48184016	ブール値でLIKE句を使用するフィルタでエラーが発生します。
AM41583953	シンプルフィルタを使用するときにエラーが発生します。
AM615133859	特定のフィールドでCurrentUser仮想リンクを使用すると一般保護違反が発生します。
AM813155830	クエリに理由もなくエイリアスが追加されています。
AM322112512	指定テーブル所有者を持つデータベースが、データベース構造を更新するときに不適切に処理されます。
AM12217486	特定の予約済みのフィールド名とリンク名が、データベースの編集前にテストされません。
AM910211010	画面に追加可能なページのリストに、ページがありません。
AM92182732	MSSQLではBlobとメモに特殊な処理が必要です。
AM31155052	AmCreatePOsFromAllReqLines()関数が、InitReqLine (IInitReqLine) リンクを満たしません。
AM413165518	AssetCenter APIを動的にロードするMFC (Microsoft Foundation Classe) を使ってプログラムを作成することはできません。
AM41518515	マルチタイプのリンクによってリンクされている情報は、リスト設定に追加することができます。
AM32810316, AM720181513	複数選択の問題です。
AM430135251	cf_self特殊フィールドでの並べ替えの問題です。
AM86132339	リストで【ジャンプ】機能を使用すると問題が発生します。
AM819173922	AQLタイプの特殊フィールドでWeekDay()関数を使用すると問題が発生します。
AM119163334	タブで表示されるすべてのフィールドが無関係なときには、タブがマスクされません。
AM83113854	Crystal Reportsで任意管理項目を使用するときに問題が発生します。

バグ番号/拡張依頼	説明
AM32219140	ナビゲーションバーからレポートをプレビューするとき、横モードが使用できません。
AM11216346	金額を換算するときに問題が発生します。
AM92220059	データベースとの接続切断時に、ボタンに対して行ったカスタマイズ（【編集／オプション】メニューで許可）が失われます。
AM127184030	〔日付+時間〕フィールドに年を2桁の値として指定すると、2桁から4桁への変換が不正確になります。
AM4107545	並べ替えに問題があります。
AM130172350	フィールドを変更したときの更新時に問題が生じます。
AM5520045	リンクリストの「さらにロード」ボタン (+) が、サブリストでは使用できません。
AM6213113	〔タブ形式で表示〕機能をサブリストで使用すると、リストにアクセス制限があるときに一般保護違反が発生します。
AM813101843	リンクされたデータ項目を、タブを経由せずに直接表示すると、「倍精度」データ型に対して一般保護違反が発生します。
AM828165559	〔任意管理項目〕タブでは、「Tab」キーを使って移動するときにフォーカスが失われる場合があります。
AM101118197	任意管理項目は、複数選択モードでは追加できません。
AM422034	任意管理項目は、複数レコードを追加するときに更新されたカウンタを考慮に入れません。
AM62142413	テーブルを作成するときに任意管理項目を割り当てると、一般保護違反が発生します。
AM226103810	新規のコストセンタ分割を追加すると、日付を正しく評価することなく、すべての経費明細が再コンパイルされます。
AM526144636	会計期間の作成に使用されるウィザードに、有効でないデフォルト値が含まれています。
AM319185434	経費明細の計算に、アクセス制限が正しく考慮されていません。
AM93145710	モニタしている任意管理項目をインポートするときに、ワークフローがトリガされません。
AM991777	完全名フィールド (FullName) にアングスコア「_」が含まれると、完全名フィールドが間違っ更新されます。
AM524135251	自動入力機能が、フィールドの読取り専用スクリプトと競合しています。
AM81316430	【編集】メニューの【複製】コマンドは、無関係のときでも常に使用できます。
AM84141310	カスタマイズを統合するときに、パスワードが不正確に処理されています。
AM11904829	週を分割するときにエラーが発生します。
AM59162510	ロットは、在庫から出されるときに自動的に分割されません。
AM6495451	レコードの作成後に【変更】ボタンが表示されます。
AM81620656	レコードを作成するときにエラーが発生します。
AM1020155639	関連付けられた経費明細を変更するときに、作業指示の費用が更新されません。
AM1123171614	ポートフォリオ品目の〔コンピュータ〕タブにおいて複数選択モードで更新すると、一般保護違反が発生します。
AM74185455	在庫で予約を使用すると、経費明細が作成されません。
AM103184836	受領した発注が、受領ウィザードで指定された在庫に送信されません。
AM12115657	受信プロセス中にキャンセルされたデフォルト値に関する問題です。

バグ番号/拡張依頼	説明
AM31216225	【作成続行】 ボタンを使用すると、特定フィールドの値が更新されません。
AM67183413	依頼を作成するとき、【場所】 リンクが一貫性を持って設定されません。
AM610164841	受領した資産は、依頼で指定されていたとしても、プロジェクトと関連付けられていません。
AM92119034	在庫のデフォルト値が考慮されていません。
AM1026143431	Oracleでサブクエリを生成するときに問題が発生します。
AM726103857	リンクから表示された、フィルタされた詳細が、元の詳細フィルタと競合しています。
AM61718395	クエリでの結合問題です。
AM21805156	テストモードでの Set() 関数に関する問題です。
AM104141732	iNumber パラメータが32767より大きいときには、 Left() 関数、 Right() 関数、 Mid() 関数が動作しません。
AM55184631	Group By コンテキストが権限のコンテキストと同じ場合、ソフトウェアカウンタによるエラーが発生します。
AM7217024	ビューを変更すると一般保護違反が発生します。
AM816142247	日本語のビューに関する一般保護違反です。
AM1110153513	【ツール】 メニューを使ってビューを変更すると、一般保護違反が発生する場合があります。
AM7813554	値が、ウィザードの1つのページから別のページに正しく引き継がれません。
AM63145456	チェーンになったウィザードの【キャンセル】 ボタンに関する問題です。
AM628154759	ウィザードのDBLISTBOX機能で、結果セット全体の並べ替えが行われません。
AM72614749	ウィザードがスクリプトによって起動されるときに、ウィザードの概要にログの内容が表示されません。
AM1115142343	クエリウィザード (QBE) に関する問題です。
AM313143935	「AND」条件が、所定のワークフロー、レコード、アクティビティに対して1回だけしか動作しません。
AM429164239	ワークフローでイベントを処理するときに発生する問題です。
AM625174739	ワークフローでイベントを処理するときに発生する問題です。

バグ番号/拡張依頼	説明
AM129104820	ウィザードとスクリプトタイプのアクションを使って、階層を通じて情報を伝達することができません。

履歴 - バージョン4.3.2

バグ番号	説明
AM27181331	階層構造のテーブルで、【氏名】フィールドの作成に使用されるフィールドに、上位レコードのいずれかのレベルでアンダースコア () 文字が含まれていると、上位レコードの更新の際に下位レコードの【氏名】フィールドが壊れます。 例: 【契約】テーブル (amContract) 内では、【氏名】 (FullName) は【参照】フィールド (Ref) を使用して作成されます。【参照】フィールドがParent_1であるレコードと、Parent_1にリンクされたレコード (【参照】フィールドはChild) があるとします。Childの【氏名】フィールドは/Parent_1/Child/です。この場合にParent_1をParent_2に変更すると、Childの【氏名】フィールドが壊れます。
AM62142413	<ol style="list-style-type: none"> 1 AssetCenter Database Administratorを開始します。 2 新規テーブルを作成します (【データベース/テーブルの追加】メニュー)。 3 オプション【機能の追加】を選択します。 4 作成を承認します (【作成】ボタン)。 5 修正をデータベースに保存します (【ファイル/保存】メニュー)。 エラーが発生します。
AM63145351	リストの列の統計で、アクセス制限が考慮されません (列のヘッダのショートカットメニュー【ユーティリティ/この列の統計】)。
AM615133859	フィールドまたはリンクに関連付けられたスクリプトの1つがCurrentUserを使用している場合、レコードの複数選択を修正するとエラーが発生します。
AM77142538	AssetCenter Database Administratorのドイツ語版で、【マイグレーション/データベースの変換】メニューを使用するとエラーが発生します。
AM625111443	特定の環境で、AssetCenterの終了時にリスト設定が保存されません。
AM2918235	フィールドまたはリンクに関連付けられたスクリプトが、任意管理項目の値を参照している場合、AssetCenterでデータベースに接続するとスクリプトがコメントアウトされます。

履歴 - バージョン4.3.2 (ビルド3654)

バグ番号	説明
AM32211505	接続されたユーザのログインが文字「@」で始めると、Crystal Reportが機能しません。

バグ番号	説明
AM322144957	Crystal Report 9.2レポートおよびそのサブレポートをインポートできません。
AM32219140	レポートをナビゲーションバーから横モードでプレビューすると、レポートがこのプロパティを失います。
AM21017168	設定によっては、表示メニューと特定のポップアップメニューが失われるときがあります。
AM21723560	amContractsテーブルにParent.Parent.Parent型のリンクがないことに関する問題です。
AM21919132	DB2のクエリに関するパフォーマンス問題です。
AM47141551	Excel形式でのリストのエクスポートに問題があります。各エクスポートごとに新しいワークシートタブが作成されています。
AM21115631	Err.Description 関数を使用して特定のワークフローおよびBasicスクリプトを実行するとAssetCenter Serverで一般保護違反が発生します。
AM25164658	モダルウィザードの順序付けに問題があります。
AM212211815	AmBusinessSecondsInDay() および AmDeadline() 関数が、AssetCenterがタイムゾーンを扱う設定になっている場合に機能しません。
AM429192117	固定資産の残余価値査定に問題があります。値がマイナスになる可能性があります。
AM92519358	機能権限の解釈に問題があります。ユーザは対応する機能権限がなくてもレポートの表示と印刷が可能です。
AM911113118	amSysConfigに更新権限がないユーザが、アプリケーションを最小化して、次に最大化すると問題が発生します。
AM227111640	空のスケジュールプレビューをダブルクリックすると一般保護違反が発生します。
AM86132339	[ジャンプ] ショートカットメニューを使用すると問題が発生します。
AM127181736	契約の使用に問題があります。
AM3818541	Basic言語のエラー処理に問題があります。
AM724153742	エクスポートモジュール内のリストと詳細との同期に問題があります。
AM226154125	テーブルを開くと一般保護違反が発生します。
AM312165717	テーブルでクエリを作成すると一般保護違反が発生します。
AM21115338	あるデータベースのカスタマイズを別のデータベースに伝達すると画面定義が失われます。
AM11614552	消費数量を移行するときに問題が発生します。
AM101144456	ポートフォリオ品目を複製するときの画面の安定性に関する問題です。
AM112165057	依頼ウィザードの問題：注文および取得状況へのリンクが定義されていません。
AM12119816	追加機能: AIXでDB2 V8をサポート。
AM1114143516	追加機能: 列形式による統計表示をオフにする機能。
AM1211162021	複数選択された【メモ】フィールドを更新するときに問題が発生します。
AM22091349	追加機能：数字で始まるSQL名のフィールドは作成されません。
AM611111246	システムデータをエクスポートするときに一般保護違反が発生します。
AM1121183141	DB2データベースの診断エラー。
AM1124152543	amCostCenterテーブルの記述文字列を変更するときに一般保護違反が発生します。
AM1223154811	「migration/from431/upgrade.lst」設定ファイルを検出できません。
AM128182940	ウィザードで関数「amEvalScript」を使用できません。
AM114141354	ウィザードによって返された最初のフィールドが空のときにウィザードで問題が発生します。

バグ番号	説明
AM630153459	関数「 AmExecuteActionByName 」を使用するときエラーが発生します。
AM1127145127	複数テーブルを結合する場合、ADBCドライバにより生成されるクエリにエラーが発生します。
AM512154843	AssetCenter Database AdministratorでDB2データベースをカスタマイズするとき問題が発生します。ユーザもデータベースの「所有者」である必要があります。
AM101141243	【請求書と経費の照合更新...】ウィザードでエラーが発生します。
AM1016194657	スクリプトライブラリのスクリプトが存在しないアクションを参照します。
AM111919051	ポートフォリオ品目画面でフィルタを適用すると、一部のタブが消えてしまいます。
AM6516223	『プログラマーズリファレンス』の問題。
AM72518374	関数「 AmCounter 」の使用方法に関するセクションをマニュアルに追加しました。
AM11393158	契約賃貸料にかかる税金を計算式で求めるときに問題が発生します。
AM47172310	リストにエクスポートするとき問題が発生します。
AM112185856	ポートフォリオ品目の項目を強制的に表示しようとするときに整合性違反が発生します。
AM327192226	作業指示に消耗品を追加するとき問題が発生します。作業指示にはすべてのモデルを使用できますが、消耗品だけは使用できません。
AM103182440	【賃貸料の比例配分】画面で選択画面が表示されません。
AM112818057	賃貸料の比例配分が適用されません。
AM411155420	ポーランド語バージョンを移行するとき問題が発生します。
AM112121232	移行対象のデータベースに同一名、同一ブランドの製品が複数含まれる場合、バージョン3.6.0から移行するとき問題が発生します。
AM36111450	ポートフォリオ品目の【在庫】ボタンが機能しません。
AM72819439	作業指示に関連付けられた消耗品はバージョン3.6.xと同じように処理されません。
AM610151313	【 amReqLine 】テーブルの【 bExternalContract 】および【 bExternalParent 】フィールドに関連する一般保護違反が発生します。
AM12618538	モデルの属性を変更するとき一般保護違反が発生します。
AM112616246	依頼明細は依頼作成ウィザードで収集されるデータではなく、依頼テンプレートのデフォルト値を継承します。
AM613202242	発注の際、最初の依頼明細の識別子は0に設定されます。
AM62717568	予約資産の依頼に対して発注書を作成するとき、作成された発注が空になります（明細なし）。
AM811113249	カタログまたはサプライヤを選択するとき問題が発生します。
AM109174539	AssetCenter Serverで受領を処理するデータベースとの接続を解除するときエラーが発生します（データベースオプション：「 AssetCenter Server で受領品をポートフォリオに自動的に作成」）。
AM1124133543	SQL92を結合するとき問題が発生します。
AM1022141919	スクリプトライブラリの一般保護違反が発生します。
AM2219264	アクション実行時に一般保護違反が発生します。
AM7813554	ウィザードでのデータ連番の問題。
AM101516109	ウィザードと有効性のスクリプトとの非互換性に関する問題。

バグ番号	説明
AM1021135750	ワークフローのアクティビティの一般保護違反が発生します。

履歴 - バージョン4.3.1

バグ番号	説明
AM1030175944	英語版以外のMicrosoft OfficeにおいてMicrosoft Excelにエクスポートするときに問題が発生します。
AM117165017	AssetCenter Database Administratorはフィールド数が255以上のテーブルの構造とデータをエクスポートしようとするときとトラップを発生します (amRequest など)。
AM108193219	AssetCenter Database Administratorはデータベースの変換時に、255以上のフィールドを持つテーブルにフィールドを追加する場合トラップを発生します。
AM630153459	あるアクションがAPI「 <i>AmExecuteActionByName</i> 」を使用して別のアクションを実行する場合、このアクションがシステムリストデータを使用して入力したフィールドを参照するときにエラーが発生します (無効な値)。
AM114141354	列の値が空のときにウィザードのリストの値がずれて表示されます (<i>[LISTBOX]</i> タイプリストの値はAPI <i>amDbGetListEx</i> で呼び出されます)。
AM1015175139	[Targ. port] フィールド (TargetPort) が空の場合、資産用に指定したポートを削除できません (' <i>amPort</i> ' テーブルのレコード番号XXXはすでに削除されているため、更新できなかった)。
AM1118162930	ADBCドライバで動作する特定のCrystal ReportをAssetCenterにインポートする前に表示エラーが発生します (<i>Crystal</i> エラー: データベースDLLでエラーを検出)。
AM102916817	<i>CurrentUser.ImplDeptId</i> リンクによって正しい値ではなく、値0が返されることがあります。
AM1016194045	ウィザードにおける空の日付の変換エラー (" (タイプ (空)) を日付と時間タイプ (非互換タイプ) に変換できない) 。
AM7716830	多数のマシンがあるドメインで [NTドメインコンピュータのインポート] ウィザードを使用すると一般保護違反が発生します。
AM611123748	オーバーフローテーブルでの受領の際に調整が考慮されない場合があります。
AM730105851	マイグレーションプロセス中に任意管理項目クラステーブルでインデックスの一意性エラーが発生します。
AM8221507	モデルの属性を変更すると一般保護違反が発生します。
AM81210217	ポートフォリオ品目のモデルを変更するとインデックスの固有性の制約エラーが発生します。
AM829153450	リモート資産に関連付けられているが、リモートポートに関連付けられていないポートを削除するときにエラーが発生します。
AM829154149	購入依頼ウィザードが正しく機能しません。

バグ番号	説明
AM82193823	[固定資産] テーブルの [資産] タブを選択するときエラーが発生します。

履歴 - バージョン4.3.0

バグ番号	説明
AM926175729	接続：[資産とロット] 画面の [ポート] タブで、レコードにリンクするとポート番号が表示されなくなります。
AM123161137	調達：返却に関する情報が [トラッキング] タブに表示されません。
AM930172631	BASICスクリプトでファイルを開くとエラーが発生します。
AM121142634	AssetCenter API DLLまたはConnect-It Asset Managementコネクタの使用時に「amdb.ini」ファイルが読み取り専用だとエラーが発生します。 このファイルの場所：▶ マニュアル『AssetCenter - インストールとアップグレード』の「.iniおよび.cfgファイル」の章。
AM619136	表示：画面でレコードのリンクをたどって変更してもレコードが更新されません。
AM43010438	接続：不特定ユーザが許容最大数に達したときに接続スロットが更新されません。
AM48144549	数量フィールドのタイプが [浮動小数点] から [倍精度] に変更されました。
AM424152932	記述文字列：固有文字列の参照時にエラーが発生します。
AM12161492	ポートフォリオ品目：資産を複製してもそのリンクが複製されません。
AM92131852	ファイナンス：予算分類画面で、[コード] フィールドにアクセスできません。
AM51111114	調達：発注ウィザード： <ul style="list-style-type: none"> ■ モデルのデフォルトカタログリファレンスがデフォルトで指定されません。 ■ サプライヤの中に表示されないものがあります。
AM112115026	調達：サブ作業指示を含む作業指示を作成すると、リンクされない依頼が2つ作成されます。
AM121595842	ウィザード：[CurrentSelection] 機能が動作しません。
AM64175835	ワークフロー：ワークフローを複製できません。
AM1210147	表示：一部のフィールドラベルがアイコンで隠されています。
AM12618038	任意管理項目：任意管理項目を非常に多く使用すると、アプリケーションが不安定になります。
AM1813439	スクリプト：FileExists()関数が動作しません。
AM417161310	調達：[トラッキング] タブで発注数が更新されていませんでした。
AM219175437	DB2：[テーブルスペース] シンタックスのサポートに問題があります。
AM1024165921	ウィザード：[DBEDIT] コントロールのタイトルが空白の場合にエラーが発生します。

バグ番号	説明
AM93195141	インデックス：複数列トリガを固有インデックスとして使用すると、最初のコラムに固有性の制約が適用されます。

履歴 - バージョン4.2.1

バグ番号	説明
AM10717814	ポートフォリオ品目詳細の【分割】ボタンに関連する【ロットの分割】ウィザードが、ポートフォリオ品目がロットのコンポーネント部分だった場合に失敗していました。
AM83019750	ナビゲーションバーからレポートを表示できませんでした。
AM93017469	【発注の作成】ウィザードが、API「 amDbGetStringEx 」ではなく、API「 amDbGetString 」を呼び出します。
AM103015310	依頼明細の数が特定数を超えると、エラーが発生しました。ビューを作成する際に、【メニューに表示】オプションを有効にできませんでした。
AM924171119	AssetCenterを特定の時間以上使用すると、画面の表示速度が減速し、最終的には表示できなくなります。 これは、画面の表示パラメータが前のパラメータを上書きする代わりに、前のパラメータに続けて格納されていたためです。 この結果、パラメータの保存スペースが不足することになりました。
AM1014123330	発注から契約を受領することができませんでした。
AM926195018	【発注の作成】ウィザード（依頼からの）が正しく動作しません。

履歴 - バージョン4.2.0

バグ番号	説明
AM95101534	ラベルの配置が正しくありません。
AM82819929	AssetCenter Serverでモジュール作成する際にエラーが発生します。サーバが再起動されたときにエラーメッセージが表示されます。
AM814104920	テーブル記述文字列（ computestring ）で特殊フィールドが使用できなくなりました。
AM72516226	Microsoft Excelでマクロを実行する際にDDEエラーが発生します。
AM2181771	AssetCenter Serverを再起動したときにデータベースへの接続で問題が生じます。
AM6612112	在庫の残りすべてを削除する際に、数量0のポートフォリオ品目を在庫中に作成することが可能でした。
AM514195424	【資産】テーブルの新しいページから【ポートフォリオ品目】テーブルのフィールドを参照する際に問題が生じます。リンクを更新できません。
AM512103935	システム画面を変更すると、カスタム画面を作成できなくなります。
AM219183645	DDEシナリオの修正。

バグ番号	説明
AM41685912	日本語データベースのマイグレーションプロセスが修正されました。
AM118204422	任意管理項目をインポートする際に一意性の制約に対する違反が発生します。
AM123163917	依頼明細における税金のデフォルト値が改善されました。これにより、バージョン4.1.xからバージョン5.01に移行する際にはフルマイグレーションが必要になります。
AM91224925	パスワードの変更により、ワークフローのトリガまたは履歴項目の生成が行えるようになりました。

履歴 - バージョン4.1.1

バグ番号	説明
AM64165951	購入依頼作成ウィザードの改善。
AM6417657	購入依頼作成ウィザードは、モデルのリストを関連するブランドを除いて公開できなければなりません。
AM6417829	発注から使用したときの購入依頼作成ウィザードの改良。
AM6417944	受領ウィザードの改良。受領番号などのいくつかの情報が追加されました。
AM64171052	請求書作成ウィザードの改良。
AM64171447	ウィザードはコンテキストに依存しなくなり、新しく作成した依頼を開きます。
AM517141713	依頼から請求書を作成できません。
AM6417225	ウィザードの言語のシンタックス (PARAMSノード) の問題。
AM6417432	依頼画面を作成モードに変更するとキャンセルできません。
AM6417532	「トラッキング」タブ (調達循環) で、準備中の発注/見積もりが表示されません。
AM522121958	契約の使用が動作しません。
AM64171259	モデル画面に会計コードが表示されません。
AM527152350	新しいレコードを作成したときに、クリアされないフィールドがあり、前に選択したレコードの値が残っています。
AM51310576	[amAsset] テーブルからの [ポートフォリオ] リンクをスクリプトから参照したときに正しく動作しません (デフォルト値、必須など)。
160435.a	[全般] タブが空です。
160435.b	[コンピュータ] 画面に [アプリケーション] タブが表示されません。
160435.c	画面のカスタマイズ: 画面に追加したタブが、変更した画面を詳細画面に表示する他の画面 ([amComputer] など) に表示されません。
AM531191423	カスタマイズ: 1-nリンクを追加し、ページにこのリンクの情報を表示する場合、テーブルを開いたときにエラーメッセージが表示されます。
AM515134940	データキットの情報がマイグレーションプロセスで考慮されません。
AM66121547	詳細書式を作成できません。
AM66135631	経費明細の作成で問題が発生します。
AM6613592	一部のコマンドの作成 (コマンド作成ウィザードによるもの) で問題が発生します。
AM411134322	Webアプリケーションの拡張に対するアクセス権限が存在しません。
AM6491025	フィールドの更新で問題が発生します。
AM619101231	名前のないページを作成できません (画面作成)。
AM415173847	マイグレーションツールのインタフェースの問題。

バグ番号	説明
AM5381451	AssetCenter Database Administrator 4.1.1で4.0.0のデータベースの診断や修復ができません。
AM617143127	画面を複製したときに、新しい画面の機能ドメインの値が強制使用されます（ポートフォリオ）。
AM617144122	階層構造のテーブルのマイグレーションに失敗します。
AM617143340	ユーザタイプが「コメント」のリンクをページに追加できません。
AM61714393	テーブルの作成時に名前の大文字と小文字が変更されます。

履歴 - バージョン4.1.0

バグ番号	説明
AM4316737	[AssetTag] フィールドが正しく伝達されません。
AM21115280	「オウンコピー」タイプのリンクをタブに追加できません。
AM61513817	返却資産の取得状況が正しくありません。
AM64163334	データベースの修復で問題が生じます（切れたリンク）。
AM21492546	更新中にエラーが発生した場合、データのトランザクションの取り消しが不完全です（AssetCenter Database Administratorで）。
AM319105316	依頼のテーブルと発注のテーブルの間でデフォルト値が伝達されません。
AM319141114	単位を持つ製品の操作中に一般保護違反が生じます。
AM37182657	受領した数量が発注した数量と一致しません。
AM31174257	AmCreateReturnFromReceipt()関数が正しく動作しません。
AM312152116	データベースの編集時に金額フィールドを作成できません。
AM9139525	リース契約の対象資産の更新時に問題が発生します。賃貸料と料率が契約対象の資産に正しく伝達されません。
AM211151036	システムボタンの【妥当性】を【いいえ】に設定すると一般保護違反が生じます。
AM22091349	SQL名が数字で始まる新規フィールドを作成しようとする問題が発生します。
AM1123111915	Windows XPでデータベース接続画面が小さすぎます。
AM1149443	インポート中にログファイルが保存されません。

7 サポート

Peregrine製品サポート

Peregrineが以前に生産していた製品のサポート情報については、以下を参照してください。

- **HP OpenView サービスインテグレータ (SVI)**
(www.hp.com/managementsoftware/svi_partner_list) とお取引がある場合は、SVIエージェントまでお問い合わせください。
- 有効なHP OpenViewサポート契約をお持ちの場合、**HP OpenViewサポート**サイトを訪問の上、**自己解決ナレッジサーチ**を使用して、技術的な疑問への回答を検索いただけます。
- Peregrineが以前に生産していた製品に関する、利用可能なサポートのプロセスとツールの最新情報については、**HP-PeregrineソフトウェアサポートWeb**サイト (www.hp.com/managementsoftware/peregrine_support) を参照してください。
このサイトでは、*Customer Support Handbook*をダウンロードしていただけます。
- 他に疑問がございましたら、HP OpenView販売担当者にお問い合わせください。

HP OpenViewサポート

HP OpenViewサポートWebサイト (www.hp.com/managementsoftware/support) にアクセスしていただけます。

HP OpenViewオンラインサポートがあれば、対話型の技術サポートツールに効率よくアクセスできます。

弊社の大切なお客様として、サポートサイトのご使用により以下のメリットを享受いただけます。

- 目的のナレッジドキュメントの検索
- サポート事案と拡張依頼の提出と追跡
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP OpenViewサポート契約の検索
- 利用可能なサービスに関する情報検索
- 他のソフトウェアカスタマとのディスカッション
- ソフトウェア研修の情報収集と登録

サポートエリアの多くでは、**HPパスポートユーザ**として登録、サインインする必要があります。

また、サポート契約も必要となります。

アクセスレベルに関する詳細については、

www.hp.com/managementsoftware/access_levelを参照してください。

HPパスポートIDを登録するには、

www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.htmlに進んでください。